

授業力向上支援シート目次

- セキュリティの警告について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 表計算ソフトデータ「授業力向上支援シート」起動時の表示画面・・・ 4

<はじめに>

- 使用の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～14
- ガイダンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～22
 - ・ガイダンスの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16～17
 - ・ガイダンス1プレゼンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～19
 - ・ガイダンス2プレゼンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～22
- 初期設定シート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

<課題把握>

- 授業力セルフチェックシート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 結果シート例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

<目標設定・まとめ>

- 目標設定シート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 目標実現シート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27～28
- まとめシート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29～30

<授業実践・振り返り>

- 指導案シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
 - ・指導案シート作成例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～33
- 見合いシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
 - ・見合いシート作成例①・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
 - ・見合いシート作成例②・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
 - ・見合いシート作成例③・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37～38
 - ・見合いシート作成例④・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
- 振り返りシート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

<成果の記録・蓄積>

- 学びシート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 成果一覧シート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

<スポット研修>

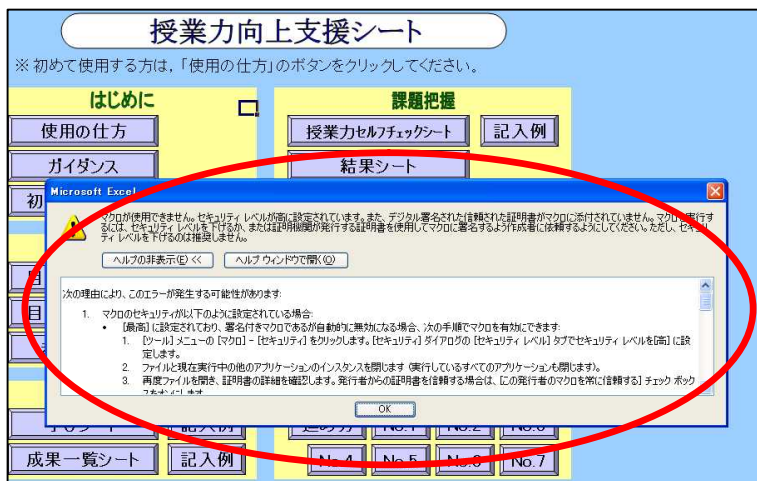
- スポット研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43～51
 - ・進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43～44
 - ・研修例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45～51

○セキュリティの警告について

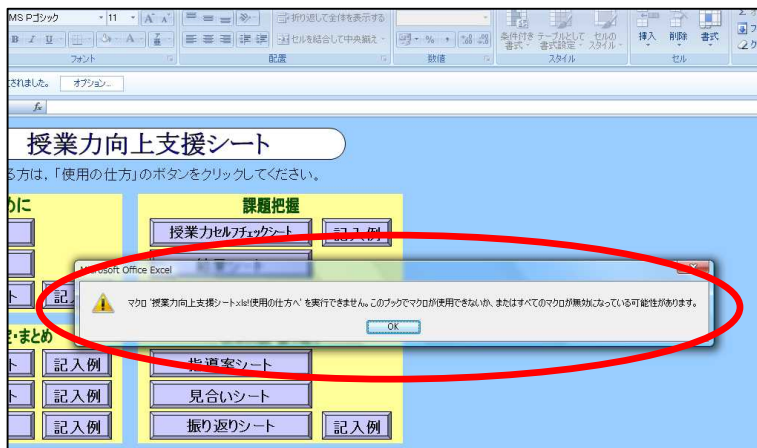
セキュリティの警告について

宮城県教育研修センター
授業改善・学力向上研究グループ

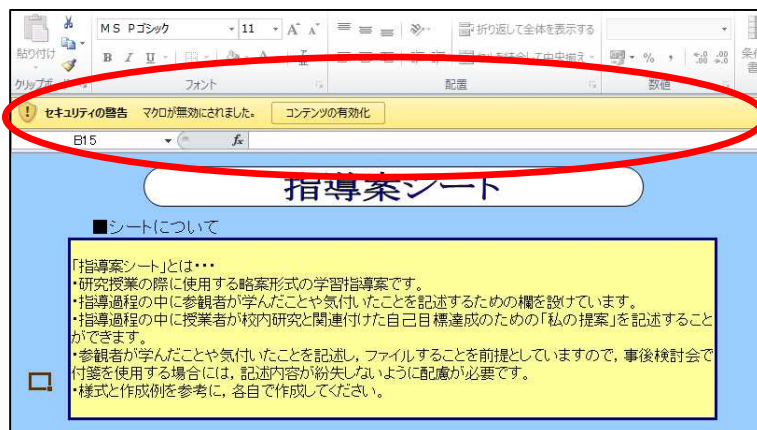
表計算ソフトで「授業力向上支援シート」をはじめて起動する際に、パソコンの設定によっては、セキュリティの警告が表示される場合があります。表示は、使用している表計算ソフトのバージョンによって異なります。次の図のうち、どの警告に該当するか確認し、セキュリティの設定を行ってください。



①をご覧ください

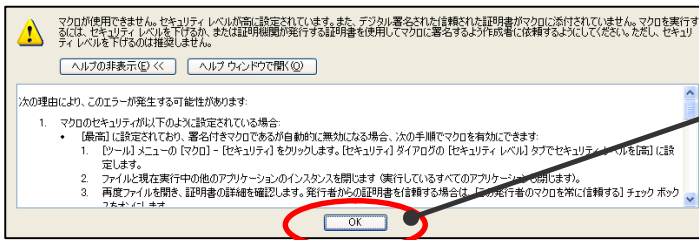


②をご覧ください

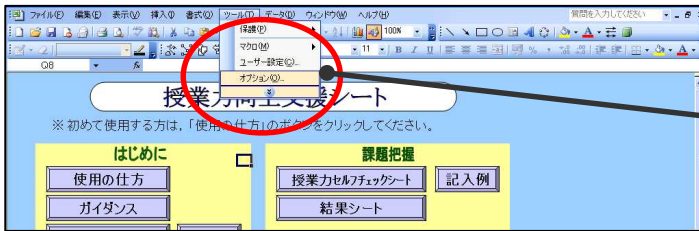


③をご覧ください

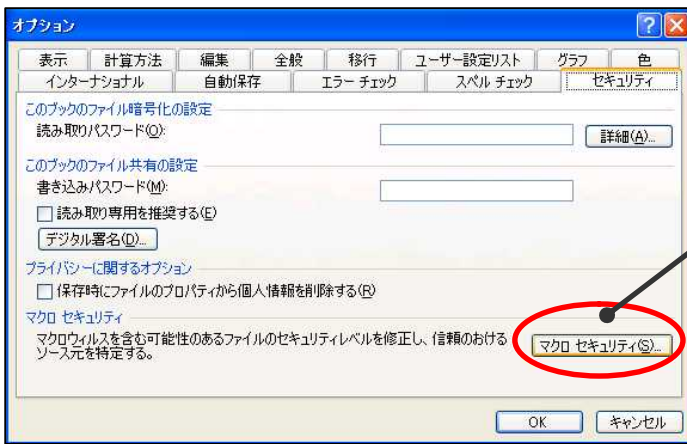
【①の場合】



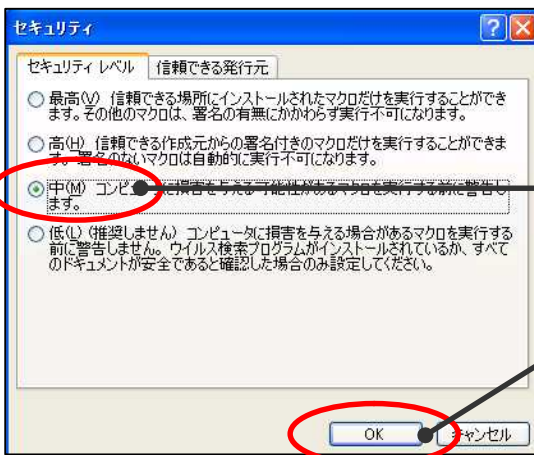
「OK」をクリックします



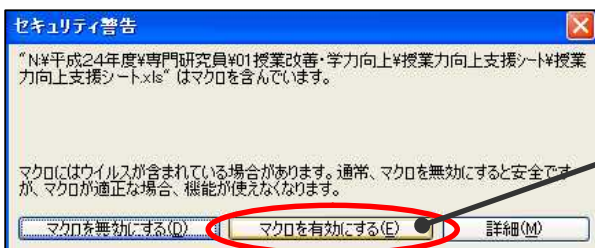
メニューバーの「ツール」を選択し、さらに「オプション」を選択します



「セキュリティ」を選択し、「マクロセキュリティ」をクリックします

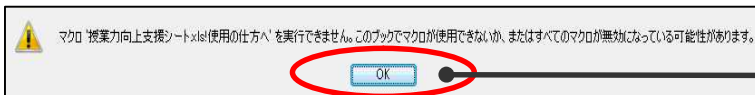


「セキュリティレベル」を「中」に設定し、「OK」をクリックします
その後、一度表計算ソフトを終了し、再度「授業力向上支援シート」を起動します

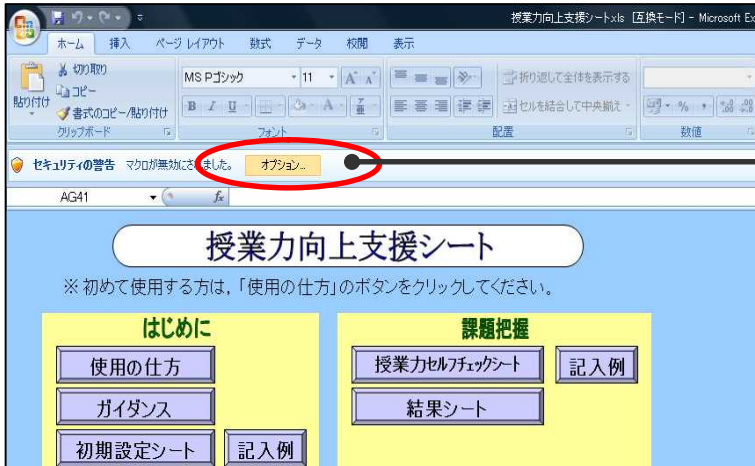


「マクロを有効にする」をクリックします

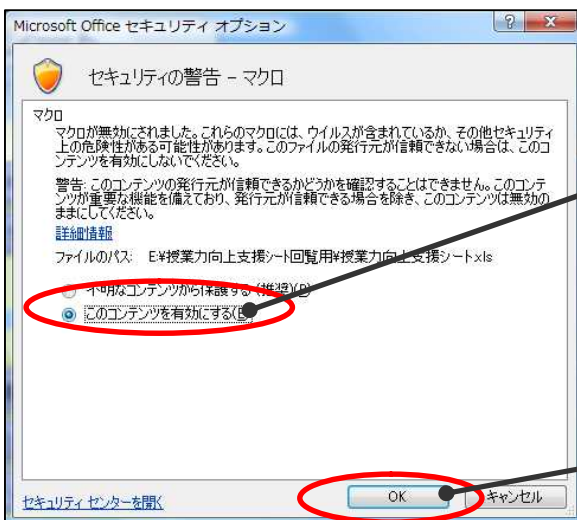
【②の場合】



「OK」をクリックします



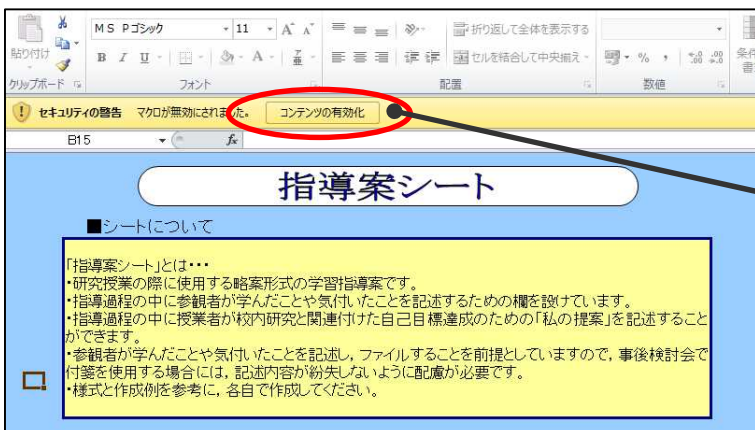
「オプション」をクリックします



「このコンテンツを有効にする」を選択します

「OK」をクリックします

【③の場合】



「コンテンツの有効化」をクリックします

授業力向上支援シート

※ 初めて使用する方は、「使用の仕方」のボタンをクリックしてください。

はじめに

使用の仕方	
ガイダンス	
初期設定シート	記入例

課題把握

授業力セルフチェックシート	記入例
結果シート	

目標設定・まとめ

目標設定シート	記入例
目標実現シート	記入例
まとめシート	記入例

授業実践・振り返り

指導案シート	
見合いシート	
振り返りシート	記入例

成果の記録・蓄積

学びシート	記入例
成果一覧シート	記入例

スポット研修

進め方	No.1	No.2	No.3
	No.4	No.5	No.7

研究主題

児童生徒の学力向上を目指した授業改善の在り方
―校内研究と関連付けた「授業力向上支援シート」の作成を通して―

平成24年度 授業改善・学力向上研究グループ
宮城県教育研修センター

2 授業力向上支援シートの構成

下の図2は、授業力向上支援シートの初期画面です。各ボタンをクリックすることで、リンクしたシートやデータへ画面が移動します。シート類は、主な取組の場面(はじめに、課題把握、目標設定・まとめ、授業実践・振り返り、成果の記録・蓄積、スポット研修)でまとめています。

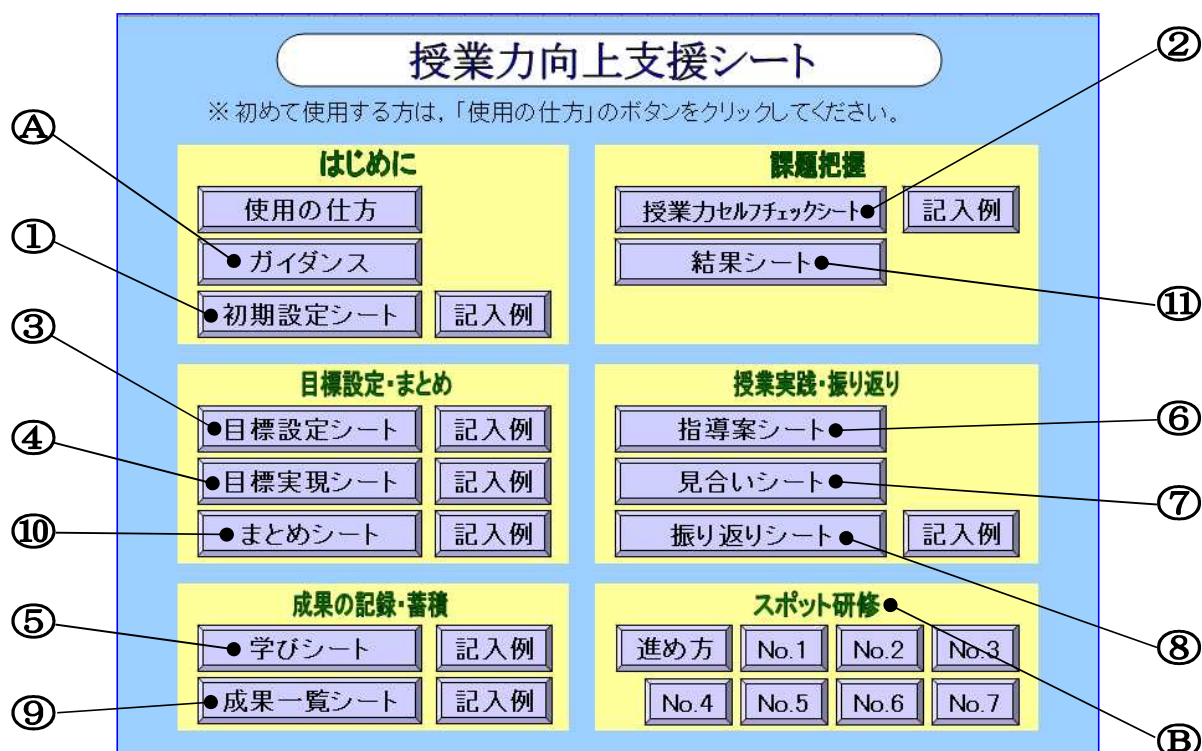


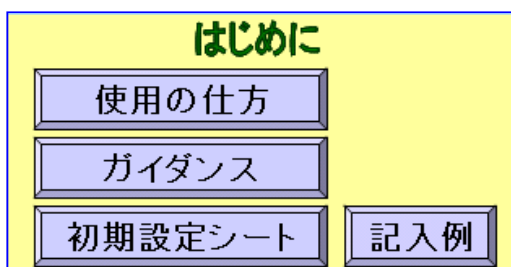
図2 授業力向上支援シートの初期画面

番号	シートの名称 (使用場面)	シートの目的	シート活用のポイント
①	初期設定シート (年度始の研究全体会)	・授業力向上支援シートの初期設定のためのシート	・年度、氏名等の他に、自校の校内研究主題や研究の視点等を入力することで、すべてのシートに入力内容を反映させることができる。配布前に研究主任が事前に入力しておくこと、ガイダンスの時間を短縮できる。
②	授業力セルフチェックシート (年度始の研究全体会)	・学力向上を目指した授業づくりに必要となる留意事項を18のチェック項目にまとめ、個々の教員が自己診断で授業力向上の現状を把握するためのシート	・診断項目や評価の観点は、各校の研究主題や実情に合わせて更新する等、自校化を図る。
③	目標設定シート (年度始の研究全体会)	・セルフチェックの結果を示し、自校の校内研究の研究主題や研究の視点(仮説)と照らし合わせながら、個々の教員が高めたい授業力の診断項目を選択するためのシート	・校内研究に対して個々の教員の主体的な参加を促す場合に活用する。「向上のための具体的手だて」の欄は、年度途中で内容を更新しながら、手だてを具体化する。
④	目標実現シート (研究全体会後に各自で)	・個々の教員が高めたいと考えた授業力の診断項目からさらに取組の優先順を設定して絞込みを行い、具体的な目標設定を行うためのシート	・記入内容は年度始に記入して終わりではなく、適宜確認、見直しをすると、内容が具体化していく。 ・取り組む項目は、始めは1つでもよい。無理なく進めることが目標の実現につながる。

⑤	学びシート (事前検討会から研究授業後の日常の授業実践まで)	・授業力向上の取組から気づきや学んだことを、個人で蓄積するためのシート	・授業の参観のみならず、普段の教育活動を通して得た学びを、メモ帳代わりとして気軽にこのシートに書き留め、学びの蓄積を図る。
⑥	指導案シート (研究授業)	・研究の視点(仮説)とその手だて及び留意点に加え、授業者の提案として自己目標達成へ向けた手だてを学習過程に位置付けて、自分の授業力向上へ結び付けるためのシート ・参観観点を設定し、参観して学んだことや気づき等を書き込むためのシート	・参観者が記入後にファイルして蓄積する。 ・使いやすさを考慮したり、記述する分量を調節したりすることが可能である。 ・授業者には記入後のシートをコピーして渡す。
⑦	見合いシート (研究授業後の授業の見合いの設定期間中)	・授業者の提案に対して、参観者が自分の学びや授業者のよさ等を記述欄に書き込み、参観者の学びを授業者に還元するためシート	・参観者が記入後にファイルして蓄積する。 ・授業者には記入後のシートをコピーして渡す。
⑧	振り返りシート (事後検討会)	・研究授業から学んだ成果・改善策等を、個々の教員が自分の授業で実践できるように一般化し、実践へ向けた具体的見通しを立てるためのシート	・研究授業での学びや成果を共有し、学校全体で実践したい場合に活用できる。個々に記入する時間をとり、その後、グループで話し合うことで共有を図る。
⑨	成果一覧シート (事前検討会から研究授業後の日常の授業実践まで)	・取組の成果を「段階」「学習の場面と手だて」「手だての内容」「指導上の留意点」の4つの項目でまとめ、各自が学んだことを一般化するためのシート	・記述内容には個人差がある。話し合いや回覧の機会を設定することで、記述内容の充実を図る。一度書いたら終わりではなく、常に内容を更新していく。
⑩	まとめシート (年度末の研究全体会)	・個々の教員の授業力向上に取り組んだ1年間の成果等を振り返り、次年度への継続を促すためのシート	・2枚目以降は、取り組んだ項目数に応じて活用する。
⑪	結果シート (必要に応じて使用)	・2度の授業力セルフチェックの結果のみを表示するためのシート	・年度の途中に授業力の向上の経過を確認したい場合に活用する。 ・授業力セルフチェックのみ導入したい場合に使用する。

番号	取組の名称 (使用場面)	目的	活用のポイント
Ⓐ	ガイダンス (年度始の研究全体会)	・授業力向上の取組を校内研究と関連付けて進める前に、取組の概要と進め方を個々の教員に周知し、共通理解を図るために行う。	・ガイダンス1とガイダンス2の説明原稿とプレゼンテーション用資料がある。 ・ガイダンス1は、「授業力向上を目指して」と題し、授業力の説明、向上の必要性を述べる際に活用する。ガイダンス2は、「自己目標を立てよう」と題し、シートを説明し、説明に沿ってシートを記入していく際に活用する。
Ⓑ	スポット研修 (必要に応じて計画)	・個人ではなかなか解決できない課題や悩みを抱えている教員のために計画する。	・進め方と7つの研修例を示しており、各自が抱える課題や悩みの内容に応じて、そのまま取り入れたり、例を参考に新たに研修計画を作成し、取り組んでいく。

3 「はじめに」について



3.1 ガイダンスについて

ガイダンスは、授業力向上の取組を校内研究と関連付けて進める前に、取組の概要と進め方を個々の教員に周知し、共通理解を図るために行う研修です。

(1) ガイダンスの構成

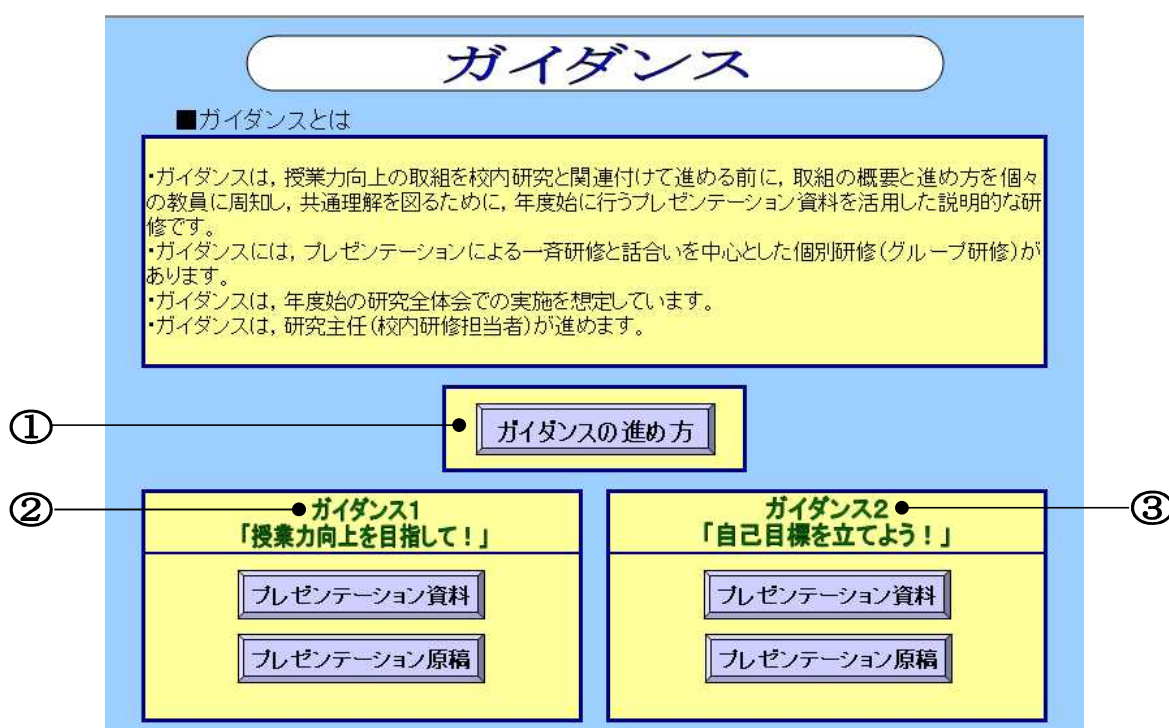


図3 ガイダンスの中見出し

番号	取組の名称	目的	主な活用のポイント
①	ガイダンスの進め方	・校内研究において、個々の教員が授業力向上の取組を校内研究と関連付けて進める意義を説明し、個々の教員が授業力を自己診断して自己目標を設定する。	・プレゼンテーション資料を使って説明する。 ・プレゼンテーションを進めながら、授業力の自己診断、自己目標の設定を行う。
②	ガイダンス1 「授業力向上を目指して！」 (10分)	・個々の教員に対して、授業力の意味や授業力向上を目指す理由等を理解してもらうために行うガイダンス	・時間の設定が難しい場合には、プレゼンテーションを行わず、資料を配付して簡単な説明のみに留める。
③	ガイダンス2 「自己目標を立てよう！」 (10分)	・個々の教員に対して、授業力向上支援シートを用いて自己目標を設定させるためのガイダンス	・個々の教員に自分のパソコンを起動してもらい、表計算ソフト上で授業力向上支援シートを開いた状態で行う。

3.2 初期設定シートについて

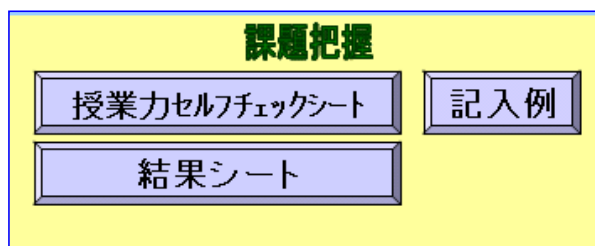
初期設定シートは、授業力向上支援シートを使用する際に、始めに必ず入力するシートです。入力する内容は図4の通りです。

初期設定シート			
平成		年度	
職名		氏名	
研究主題			
副題			
研究の視点(重点実践内容)			
①			
②			
③			
④			
⑤			

図4 初期設定シート

- ・研究の視点(重点実践内容)の欄には、研究主題や副題に迫るための共通の視点や学年(教科)での具体的手だてを入力します。入力した情報は、関連するすべてのシートに転記されます。
- ・記入例を参考にしてください。

4 「課題把握」について



4.1 授業力セルフチェックシートについて

授業力セルフチェックシートは、授業力を構成する5つの力ごとに複数の診断項目を設けています。項目ごとに評価の観点があり、個々の教員は評価の観点を参考に研究教科における具体的な指導場面を振り返りながら、評価を5段階の評定尺度と10段階の量的達成度から当てはまると思う段階を選択して数値を入力します(図5)。評価を10段階に設定することで、自己目標の達成に至らない場合でも取組に応じた努力を反映するように配慮しました。

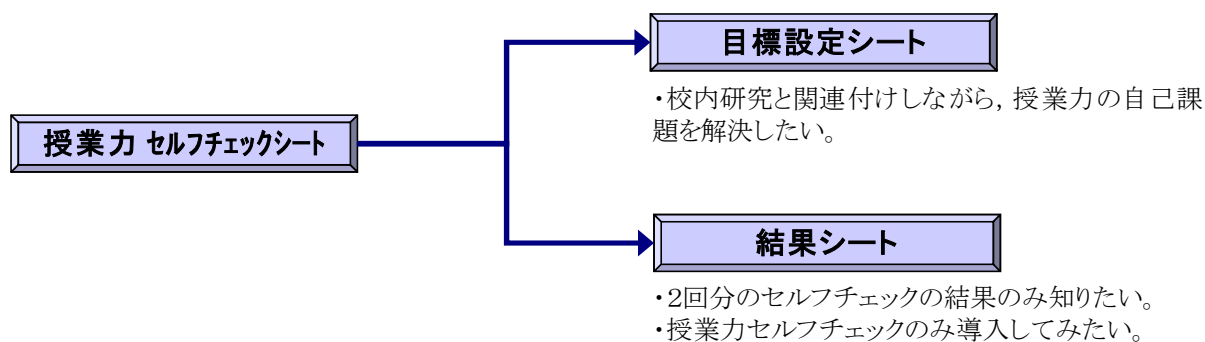
授業力セルフチェックシートで、自分の授業力を診断したら、次は目標設定シートでその結果を確認し、校内研究と関連付けた自己目標の達成へ向けて実践的な研修に取り組んでいくことになります。

各診断項目における評価の観点は主なものであり、研究主任は、必要に応じて加除修正を加え、自校化を図ることが望ましいと考えます。

また、個々の教員が年度途中で授業力のセルフチェックを行い、経過的な授業力の向上を数値で確認したい場合には、「結果シート」を活用します。

評価の基準		
評定尺度	量的達成度	評価値
非常に当てはまる	10	10
	9	9
かなり当てはまる	8	8
	7	7
わりに当てはまる	6	6
	5	5
少し当てはまる	4	4
	3	3
わずかに当てはまる	2	2
	1	1

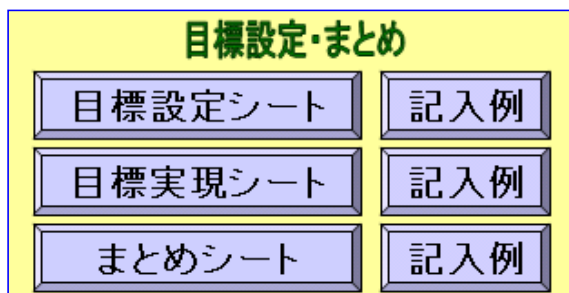
図5 評価の基準



4.2 結果シートについて

結果シートは、授業力セルフチェックシートを用いて自己診断した2回分の結果を比較・検討するために活用するシートです。学期の途中などに、授業の変容(向上)の様子を数値で確認したい場合などに役立てることができます。

5 「目標設定・まとめ」について



5.1 目標設定シートについて

目標設定シートは、授業力セルフチェックシートを用いた授業力の診断結果を確認し、自分の授業力における課題を把握するためのシートです。

目標設定シートは、授業力セルフチェックシートの診断項目による評価結果を集計してまとめたものであり、授業力を構成する5つの力ごとの平均が数値とレーダーチャートで表示されます。また、授業力を構成する5つの力ごとに、1から10の評価値がいくつあったかを見取るための評価値ごとの項目数が表示されるため、平均化される以前の状況も見取り比較することが可能です。

目標設定シートの記入箇所は4箇所です。始めに、目標設定シートの分類ごとの平均の目標値の欄に1回目の結果を受けた目標値を設定します。次にレーダーチャートや評価値ごとの診断項目数等を参考に、本年度高めたいと考える授業力の診断項目を7つ以内に絞り込んで決定していきます。高めたい授業力の診断項目が決定したならば、自校の校内研究の取組と照らし合わせて、取組の方向性の欄で校内研究を通して取り組むか個人で取り組むかを選択します。そして、向上のための具体的手だてを記述します。その際、注意すべき点は、校内研究を通して取り組むと選択した項目については、校内研究の視点(仮説)や学年・教科等で計画した手だてとの関連や整合性を重視して、具体的手だてを設定することです。

5.2 目標実現シートについて

目標設定シートの記入を完了したならば、目標実現シートを使用して、具体的な自己目標の設定を行います。目標実現シートの目標設定の手順は、

- ① 優先順の決定
- ② 自己目標の設定
- ③ 目標に向かう上での課題の認識
- ④ スモールステップの設定
- ⑤ 自己目標を達成した自分の姿の予想

の順で行います。

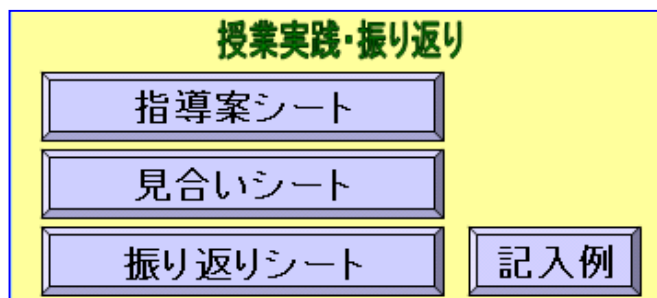
5.3 まとめシートについて

年度末には、2回目の授業力のセルフチェックを行います。まとめシートは、2回のセルフチェックの変容の比較と、自己目標の達成を目指したこれまでの個々の取組状況の2点から、振り返りを行います。

振り返りは、目標設定シートで選択した「高めたい授業力の診断項目」ごとに行います。振り返りの内容は、「自己目標」とスモールステップの「STEP1」、「STEP2」の3点に関して、S, A, B, C, Dの5段階で評価する「達成度評価」と「できたこと」と「できなかったこと」の記述によって行います。

また、自己目標の達成状況に応じた改善の方向性も検討し、次年度の授業力向上のための自己目標の設定に役立てていきます。

6 「授業実践・振り返り」について



6.1 指導案シートについて

授業者にとっては、研究の視点(仮説)とその手だて及び留意点に加え、授業者の提案として自己目標達成へ向けた手だてを学習過程に位置付けて、自分の授業力向上へ結び付けるためのシートです。また、参観者にとっては、自己目標に応じた参観観点を設定し、参観して学んだことや気づき等を書き込むためのシートとなります。

指導案シート

■シートについて

「指導案シート」とは・・・

- ・研究授業の際に使用する略案形式の学習指導案です。
- ・指導過程の中に参観者が学んだことや気付いたことを記述するための欄を設けています。
- ・指導過程の中に授業者が校内研究と関連付けた自己目標達成のための「私の提案」を記述することができます。
- ・参観者が学んだことや気付いたことを記述し、ファイルすることを前提としていますので、事後検討会で付箋を使用する場合には、記述内容が紛失しないように配慮が必要です。
- ・様式と作成例を参考に、各自で作成してください。

Word Ver.

指導案シート様式

指導案シート作成例

一太郎 Ver.

指導案シート様式

指導案シート作成例

図6 指導案シートの中見出し

ここで紹介する指導案シートは、様式と作成例です。目的によって、さらに詳しく記述したり、簡略化したりしながら、授業者の意図に沿うように作成するようにしましょう。

6.2 見合いシートについて

研究授業の事後検討会後半には、振り返りシートを用いて立案した「今後の授業実践(授業の見合い)の計画」に沿って、研究授業を通して学んだことを活用し振り返るために、授業を見合うことを計画します。

見合いシートは、授業を見合い、互いの提案等に対してよさを認め合い、助言し合う際に使用するシートです。授業の見合いは、実践したことによる気づきや学びが個々の教員の授業力向上に大きな影響を与える取組の場面です。できるだけ授業を公開をするようにすることで、自分の授業力に関係した学びの活用と振り返りを繰り返し、授業力向上を図ることができます。

見合いシート

■シートについて

「見合いシート」とは・・・

- ・研究授業後の授業の見合いの取組の際に使用する学習指導案です。
- ・指導過程の中に参観者が学んだことや気付いたことを記述するための欄を設けています。
- ・指導過程の中に授業者が校内研究と関連付けた自己目標達成のための「私の提案」を記述します。
- ・参観者が学んだことや気付いたことを記述し、ファイルすることを前提としていますので、参観者が原本をファイルし、授業者には見合いシートをコピーして手渡します。
- ・様式と作成例を参考に、各自で作成してください。

分類	Word Ver.	一太郎 Ver.
① A4版1ページ以内で作成 (授業での提案が2つの場合)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>
② A4版1ページ以内で作成 (授業での提案が1つの場合)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>
③ A4版2ページ(裏表)で作成	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>
④ A3版1枚で作成	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">様式</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">作成例</div> </div>

図7 見合いシートの中見出し

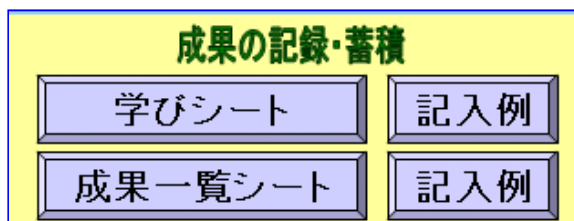
6.3 振り返りシートについて

振り返りシートは、研究授業の事後検討会までの取組を通して学んだことを書き込んでいくためのシートです。ここでの学んだこととは、授業を参観して見取った授業者の見習うべき所作や指導技術、教授方法等に加え、事後検討会での話合いで得られた成果や課題及び改善策等を指します。それらを、授業の場面や学習活動などの見出しとなる用語を分類の欄に書き込みながらまとめます。

次に振り返りシートでは、記述した学びを参考としながら、授業の改善を目指して、今後の授業実践の見通しと計画の立案に進みます。あくまでも個々の教員による実践が中心となりますが、個々の教員を支援するために学年や教科部等でグループを組み、情報交換をしながら行うことも考えられます。

今後の授業実践の見通しと計画を立案する際には、教科書や年間指導計画等をもち寄ることで、具体的な見通しが立てやすくなり、他の教員との情報交換もしやすくなると考えられます。情報交換は、できるだけ自由な雰囲気の中で行いましょう。

7 「成果の記録・蓄積」について



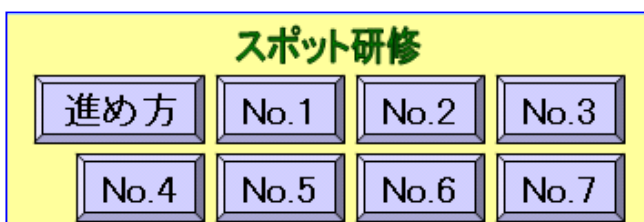
7.1 学びシートについて

学びシートは、授業力向上の取組から学んだことを、個人で蓄積するためのシートです。学びシートの使用場面は、特定していません。それは、授業の参観のみならず、普段の教育活動を通して学び得たことを、メモ帳代わりとして気軽にこのシートに書き留めるようにすることが重要であるからです。

7.2 成果一覧シートについて

成果一覧シートは、取組の成果を「段階」、「学習の場面と手だて」、「手だての内容」、「指導上の留意点」の4つの項目でまとめ、学んだことを一般化するためのシートです。一般化された成果とは、特定の教科や単元、題材のみで通用する成果ではなく、広く応用的に用いることができる成果です。成果一覧シートについては、教員間で話し合いや回覧の機会を設定することで、記述内容の充実を図ります。一度書いたら終わりではなく、常に内容を更新していくようにすると、具体的で汎用性がある成果の記述ができます。

8 「スポット研修」について



8.1 進め方について

スポット研修とは、校内研究の各取組を活性化させるためや校内研究と関連しない自己目標の解決を目指して適宜取り入れる研修のことです。

「進め方」では、スポット研修の意義や計画の仕方、進め方のポイント等を詳しく記述しています。

8.2 研修例について

ここで挙げる具体例は、学校内での情報交換を主としたグループ研修(ワークショップを中心として)をイメージしています。外部講師の招聘や校内で誰かが講師を務めて研修を進めることも考えられます。必要に応じて効果的と思われる研修を計画していくとよいでしょう。

☆No.1「情報交換をしよう」(随時実施)

☆No.2「振り返りをしよう」(授業の見合い後を中心に)

☆No.3「学ぶ意欲」(児童生徒理解)

☆No.4「教材を解釈しよう」(教材解釈力)

☆No.5「学習指導案の作成の仕方」(授業構成力)

☆No.6「目指す理想の授業像」(授業実践力)

☆No.7「実践の評価・成果の共有」(授業改善力)

ガイダンス

■ガイダンスとは

- ・ガイダンスは、授業力向上の取組を校内研究と関連付けて進める前に、取組の概要と進め方を個々の教員に周知し、共通理解を図るために、年度始に行うプレゼンテーション資料を活用した説明的な研修です。
- ・ガイダンスには、プレゼンテーションによる一斉研修と話し合いを中心とした個別研修(グループ研修)があります。
- ・ガイダンスは、年度始の研究全体会での実施を想定しています。
- ・ガイダンスは、研究主任(校内研修担当者)が進めます。

ガイダンスの進め方

ガイダンス1 「授業力向上を目指して！」

プレゼンテーション資料

プレゼンテーション原稿

ガイダンス2 「自己目標を立てよう！」

プレゼンテーション資料

プレゼンテーション原稿

※プレゼンテーション資料は、起動後、画面上でマウスを右クリックし、全画面表示にしてください。
(表計算ソフトのバージョンによっては、スライドショーを実行します。)

ガイダンスの進め方

1 目的

- ①授業力セルフチェックシートを活用し、個々の教員が自分の授業力を自己診断する。それを基にして、校内研究に取り組む際の自己目標を設定する。
- ②自己目標を達成するための見通しを立て、意欲をもって取り組めるようにする。

2 研修形態

- ・一斉研修
- ・個別研修(グループ研修)

3 進め方のポイント

3.1 プレゼンテーション資料を使って説明

説明案(20分)

- 1 授業力の向上を図ろう
- 2 校内研究と授業力の向上
- 3 個の授業力向上を校内研究と関連付けて進めること
- 4 授業力向上支援シートの活用について
- 5 自己目標の設定について

3.2 説明のポイント

- ・個々の教員の授業力の向上を図ることの大切さについて説明し、授業力を構成する5つの力について押さえます。
- ・校内研究テーマに基づいて研究授業を進めていくことを確認します。
- ・校内研究に関連付けて個々の教員の授業力向上の取組を進めて、授業改善を図ります。
- ・個々の教員の授業力向上を図るために、各種シート類を活用していきます。そして、必要に応じてスポット研修を行います。
- ・授業力セルフチェックシートから目標設定シートの記入までの手順を説明すると共に、その大切さを確認します。

3.3 授業力セルフチェックシートから目標設定シートの記入について

- ・プレゼン資料では、取組の概要を押さえます。パソコン上で記入作業に入るときに適宜説明を加えると分かりやすくなります。
- ・校内研究テーマや学年・教科等における研究の視点や手だて等と個々の教員の伸ばしたい授業力とを関連付けて目標を考えます。
- ・目標がなかなか立てられない場合も考えられます。その際は、学年・教科等のグループでの情報交換を取り入れましょう。

4 ガイダンスの進め方の例

内容	留意点	準備他
1. はじめのあいさつ	・校長または教頭に依頼する。	
2. 今年度の校内研究について	・自校で計画している校内研究の概要や本年度の研究の方向性について説明する。 (従来の年度始の研究全体会を行う)	
3. ガイダンス1を行う。	・個々の教員にプレゼンテーション用スライドを配付する。	・プロジェクター ・配付資料 ・プレゼンテーション原稿

4. ガイダンス2を進めながら、授業力のセルフチェックや結果の確認等をする。	・各自パソコンで、授業力向上支援シートを開いて、入力させながら説明を進める。 ・研究の視点や手だて等が決定していない場合は、初期設定シートへの記入は後日、各自で行ってもらう。	・パソコン(各自)
5. 各自入力を進める。	・自己目標設定のための時間を設ける。(目標設定シートの記入) ・目標実現シートは、後日各自で行ってもらう。	・パソコン(各自)
6. 各自のセルフチェック結果や自己目標設定等に関する情報交換を行う。	・学年(教科)組織でグループを構成する。 ・校内研究との関連付けの仕方について主に話題とする。	・目標設定シート(印刷できるとよい)
7. 終わりのあいさつ	・校長または教頭に依頼する。	

5 研究主任の役割

5.1 準備しておくこと

○場の設定

- ・プレゼンができる会場
- ・パソコンが使用できる会場
- ・情報交換できる会場

※活動内容によって会場を使い分けることも検討します。

○説明に必要な資料

- ・プレゼン内容を把握し、必要であれば理解を助けるための資料を準備します。

5.2 留意点

○校内研究テーマと授業力の関連を自分なりに捉えておきます。

※主に授業力のどの部分との関わりが考えられるか

○校内研究と個々の教員の授業力向上を関連付けて推進していくことの共通理解を図るようにします。

○「授業力向上支援シート」の活用の仕方を分かりやすく説明します。

※授業力セルフチェックシートから目標設定シートの記入にかけては、特に重要なので時間をかけて説明します。

○個々の授業力を高めるためには、グループとして協力していくことが土台になることを押さえます。

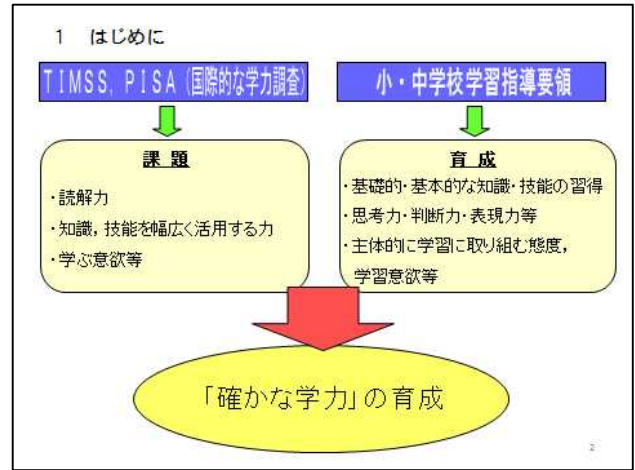
※一人で悩むことなく、みんなで頑張っていくことを確認します。

○ガイダンス1

表示画面

授業力の向上を目指して！

- 1 はじめに
- 2 授業力とは？
- 3 授業力を向上させる！
- 4 終わりに



1 はじめに

読み原稿

○これから、「授業力向上を目指して！」のスライドを使って、「授業力」について説明します。

1 はじめに

○TIMSSやPISAといった国際的な学力調査の結果を目にしたことがあると思います。その結果分析では、読解力や知識・技能を幅広く活用する力、学ぶ意欲等に課題があると指摘しています。

○また、小・中学校の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度、学習意欲の「確かな学力」を育成することを求めています。

○こうしたことから、学校や個々の教員は、確かな学力を育成することが求められています。

1 はじめに

【平成24年8月中教審答申】

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」

「学び続ける教員像」の確立

教員は、探究心をもち、学び続ける存在であること

↓

課題

常に学ぶ姿勢をもって研さんを積み、授業力を高めることが必要

1 はじめに

【宮城県教育委員会】

宮城県教員研修マスタープラン (平成20年3月)

- ・教員の資質向上は最も重要な課題

宮城県教育振興基本計画 (平成22年3月)

- ・校内研修の充実による教員の教科指導力の向上

宮城県学力向上推進プログラム改訂版 (平成24年3月)

- ・校内研修をより充実させるための支援を展開していくことが重要

1 はじめに

○中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、これからの教員に求められる資質能力として「実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探求心を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である（『学び続ける教員像』の確立）」と述べています。

1 はじめに

○宮城県においても、「宮城県教員マスタープラン」「宮城県教育振興基本計画」「宮城県学力推進プログラム」等で、「教員の資質能力の向上」や「資質能力向上のための校内研修の充実」といったことが重要な課題とされています。

2 授業力とは？

授業力を構成する5つの力



「学んだことの活用と振り返り」を繰り返すことで、授業改善力を伸ばしながら、児童生徒理解力、教材解釈力、授業構成力、授業実践力を向上させていく。

3 授業力を向上させる！

校内研究

個々の教員の
授業力向上の取組

目的の1つ

○教員の授業力向上を図る

目的

○教員がもつ授業力の課題の軽減化や解決を図る

関連付くのではないか

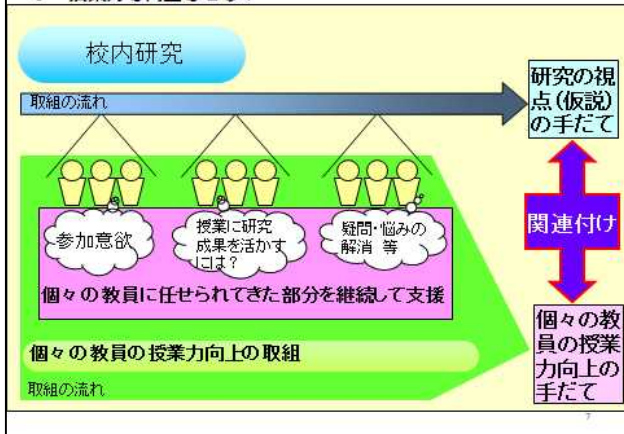
2 授業力とは？

- 授業力とは、教員に必要な資質能力の1つです。
- 授業力を構成する5つの力の中で、特に「授業改善力」を重視します。
- 一人一人の先生方の授業力向上のための取組の中で、他の4つの力の向上を推進する力であると位置付けました。
- 「学んだことの活用と振り返り」を繰り返すことで、授業改善力を伸ばしながら、児童生徒理解力、教材解釈力、授業構成力、授業実践力を向上させていきます。

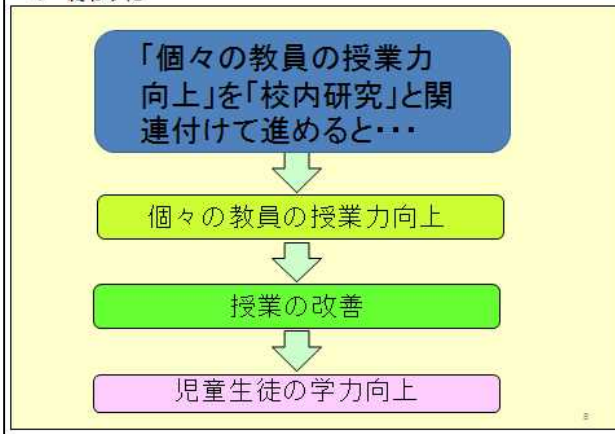
3 授業力を向上させる！

- では、どのようにして一人一人の先生方に任されていた部分を改善し、「授業力向上」を図っていくのかということです。
- 現在の学校には、さまざまな事情から時間的な余裕はありません。そこで、これまで行われてきた「校内研究」の取組に一人一人の先生方の「授業力向上」を目指した取組を関連付けていくことが、限られた時間を上手に使うことだと思います。

3 授業力を向上させる！



4 終わりに



3 授業力を向上させる！

- そして、いかに一人一人の先生方の意欲を高め、持続させるのが大切になってきます。
- そこで、「一人一人の先生方の授業力向上」を「校内研究」と関連付けて取り組んでいくことを提案します。

4 終わりに

- ここまで述べてきたことが、「授業力向上を目指して」取り組もうとすることです。
- 自己目標を設定し、目標を達成するために頑張ることが、授業力の向上になります。
- 「校内研究」の取組を一人一人の先生方の「授業力向上」にこれまで以上に活用し、しかも一人で何とかしようとするのではなく、みんなで向上させようとする取組です。
- 学んだことを活用し、それを振り返る。それを研究授業及び日常の授業で繰り返しながら、みんなで取り組み、学校全体の授業力向上を目指しましょう。

○ガイダンス2

表示画面

自己目標を立てよう！

- 1 はじめに
- 2 自分の授業力をチェック！
- 3 課題を把握！
- 4 目標を設定！
- 5 具体的な自己目標の設定！
- 6 終わりに

- 1 はじめに
 - 授業力セルフチェックシート
 - ↓
 - 目標設定シート
 - ↓
 - 目標実現シート
 - ↓
 - 「授業力向上」の取り組みのスタート

読み原稿

- 1 はじめに
 - 「自己目標を立てよう！」のガイダンスを始めます。
 - パソコン画面から、実際に操作していきます。

- 1 はじめに
 - 「授業力セルフチェックシート」「目標設定シート」「目標実現シート」の3つのシートを使い、「授業力向上」のための取組をスタートします。
 - パソコンを起動し、シート類を選べる画面にします。

- 1 はじめに
 - 自己目標の設定
 - ↓
 - 目標設定シート 目標実現シート
 - ↓
 - 実態把握、取組内容の絞込み、校内研究との関連付け 自己目標、スモールステップ、達成時の自分の姿
 - ↓
 - 授業力向上の取組へスムーズにつなげる

- 2 課題を把握！

授業力セルフチェックシート			評価は10段階で行います。(半角数字で入力) ※評価の基準を参考にしてください。
番号	項目	氏名	評価
1	2	3	4
1	授業力の学習意欲をいかに高めるか		5
2	授業力の学習内容の定着状況を把握しているか		
3	授業力の授業や行動等を評価しているか		
4	授業に用いる教材や資料の分析を行っているか		
5	授業力の実態を考慮して教材解釈を行っているか		

評価の観点		評価	達成度
非常に当てはまる	10		
かなり当てはまる	9		
やや当てはまる	8		
当てはまる	7		
やや当てはまる	6		
少し当てはまる	5		
少し当てはまる	4		
当てはまる	3		
わずかに当てはまる	2		
当てはまる	1		

- 1 はじめに
 - 「授業力セルフチェックシート」で自分の授業力をチェックしてから「目標設定シート」「目標実現シート」で「自己目標」の設定を行います。
 - そして、授業力向上の取組へスムーズにつなげたいと考えています。

- 2 課題を把握！
 - まず、「授業力セルフチェックシート」で自分の授業力をチェックします。
 - 授業力を構成する力で分類され、それぞれ複数の診断項目を設けています。
 - 診断項目に評価の観点があり、その評価の観点を参考に研究教科における具体的な指導場面を振り返りながら、評価を数値で入力します。5段階の評定尺度と10段階の量的達成度から当てはまると思う段階を選択してください。

2 課題を把握！

目標設定シート

能力	目標値	評価値
児童生徒理解力	3.7	4.0
教材理解力	5.0	6.0
授業構成力	3.7	4.0
授業実践力	4.3	5.0
授業改善力	3.0	4.0

評価値が低い項目を確認

目標値の設定

評価値ごとの診断項目【1項目】

評価値	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教材理解力	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
授業構成力	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
授業実践力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

レーダーチャートに表示

3 目標を設定！

「校内研究で取り組む」か「個人で取り組む」かを選択する。

「いつ、どこで、なにを、どうする」という流れで具体的手だてを考える。

7項目以内に絞込み

番号	高めた授業力の診断項目	現状	手だて	効果
1	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
2	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
3	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
4	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
11	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
15	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
16	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力
18	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	授業実践力	授業実践力	授業実践力

2 課題を把握！

- 次に「授業力セルフチェックシート」を用いた結果を目標設定シートで確認し、自分の授業力における課題やよさを把握します。
- 目標設定シートは、授業力セルフチェックシートの診断項目による評価結果を集計してまとめたもので、授業力を構成する力ごとの平均が数値とレーダーチャートで表示されます。
- また、授業力を構成する5つの力ごとに、1から10の評価値がいくつあったかを見取るための評価値ごとの項目数が表示されるため、平均化される以前の状況も見取り比較することが可能となります。

3 目標を設定！

- 目標設定シートで自分の授業力に関わる課題やよさを把握したら、授業力向上のための自己目標を設定します。目標の設定は、目標設定シートと目標実現シートを用いて行います。
- 目標設定シートの分類ごとの平均の目標値の欄に1回目の結果を受けた目標値を設定します。
- 次にレーダーチャートや評価値ごとの診断項目数等を参考に、本年度高めたいと考える授業力の診断項目を決定します。

※具体的な例で説明してもよい。

4 具体的な自己目標の設定！

目標実現シート 記入の順序

- ①優先順を決定
- ②自己目標を設定
- ③現状の認識
- ④スモールステップの設定
- ⑤自己目標を達成した自分の姿を予想する

(目標実現シートの上部)

番号	高めた授業力の診断項目	優先順	自己目標	現状の認識	スモールステップ	自己目標を達成した自分の姿
1	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	4	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
2	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	3	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
3	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	2	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
4	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	1	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
11	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	2	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
15	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	3	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
16	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	1	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。
18	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	2	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。	児童生徒の学習意欲を高めることのできる授業を行うことができる。

4 具体的な自己目標の設定！

目標実現シート 記入の順序

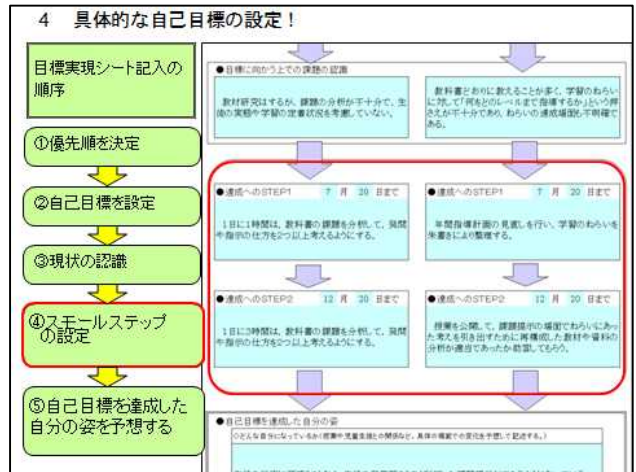
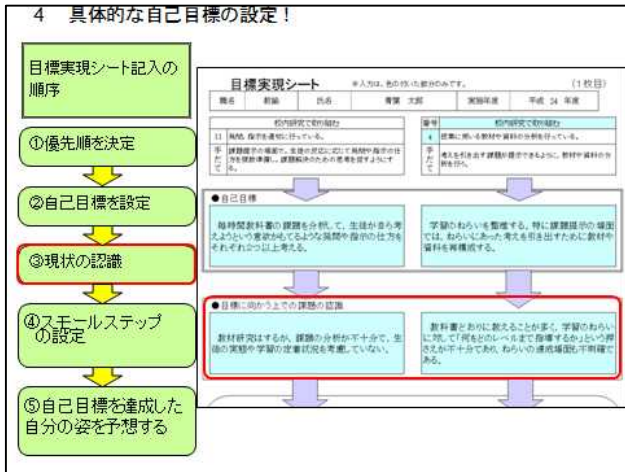
- ①優先順を決定
- ②自己目標を設定
- ③現状の認識
- ④スモールステップの設定
- ⑤自己目標を達成した自分の姿を予想する

●自己目標

●目標に向かうまでの課題の認識

4 具体的な自己目標の設定！

- 目標設定シートの記入が終わったら、目標実現シートを使い、具体的な自己目標の設定を行います。目標実現シートの目標設定の手順は、①優先順の決定②自己目標の設定③目標に向かう上での課題の認識④スモールステップの設定⑤自己目標を達成した自分の姿の予想の順に行います。パソコン画面右側に手順が出てきますので、確認しながら進めて下さい。
- ※学校の実態に応じて、パソコン入力ではなく、手書き記入でもかまわない。
- ※適宜説明を行う。



4 具体的な自己目標の設定！

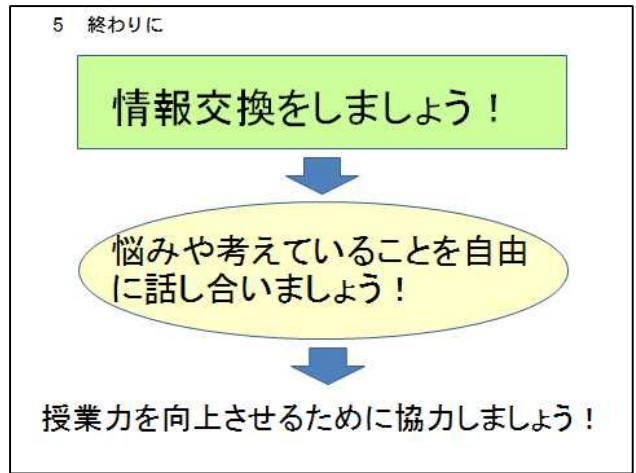
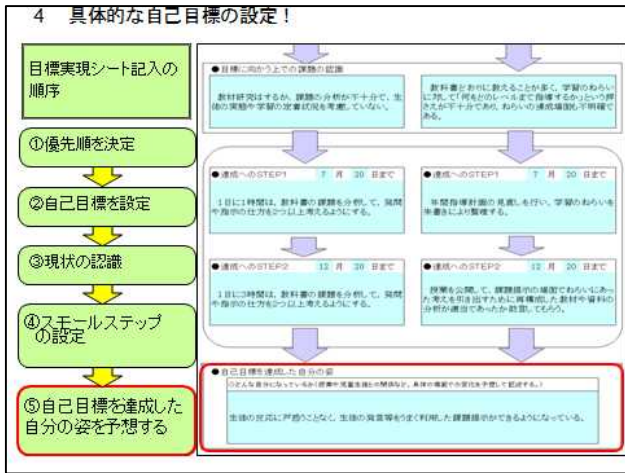
※適宜説明を行う。

4 具体的な自己目標の設定！

○「④スモールステップの設定」については、スモールステップを2段階で設定し、それぞれ「達成へのSTEP1」「達成へのSTEP2」としています。

○また、達成期日を設定し、研究授業後の事後検討会では、スモールステップの達成度を確認する時間を設けます。

※適宜説明を行う。



4 具体的な自己目標の設定！

○「⑤自己目標を達成した自分の姿の予想」については、目標を達成した際の自分の成長した姿を予想してください。授業や児童生徒との関係など、できるだけ具体的場面での変化を予想して意欲に結び付けていきましょう。

※適宜説明を行う。

5 終わりに

○「目標設定シート」「目標実現シート」の記入はできたでしょうか。まだ記入が済んでいない、どのようなことを目標にすればいいのかわからない等があるかもしれません。

○これから、学年会（部）（教科会）ごとに情報交換をします。悩みや考えていることを自由に話し合ったり、助言し合ったりしながら、自己目標を立てることに活かしてください。

○もし、今日この場で書けなくても気にしないでください。校内研究を進めていく中で、少しずつ見直したり、書き加えたりしていきましょう。

○初期設定シート記入例

初期設定シート

平成	24	年度
----	----	----

目次

職名	教諭	氏名	青葉 太郎
----	----	----	-------

研究主題	確かな学力を身に付けた生徒の育成
副題	主体的な学びを引き出す指導の工夫を通して

研究の視点(重点実践内容)	
①	考えを引き出す課題提示の工夫
②	考えや思考の過程がノートに表れる指導の工夫
③	
④	
⑤	

○授業力セルフチェックシート記入例

授業力セルフチェックシート			実施年度	平成	年度
職名	氏名	評価は10段階で行います。(半角数字で入力) ※評価の基準を参考にしてください。			
番号	分類	診断項目	評価		主な評価の観点
			1回目	2回目	
1	児童生徒理解力	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようと努めている。			<ul style="list-style-type: none"> 挙手やしぐさ、活動の様子等から、意欲を把握しようとしているか。 学習意欲を促進したり阻害したりする外的な要因を分析しているか。
2		児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようと努めている。			<ul style="list-style-type: none"> 学習の様子、記述内容や提出物等から学習の定着状況を把握しているか。 評価を累積し、学習の定着状況を把握しているか。
3		児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。			<ul style="list-style-type: none"> 発達段階、友達関係、家庭状況等を把握しているか。 一人一人の発言を大切に考え、傾聴の意識をもっているか。 一人一人に気を配り、言葉かけを工夫しているか。
4	教材解釈力	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。			<ul style="list-style-type: none"> 教科等の専門知識を深めるため、書籍や研修等で研鑽しているか。 日頃から教材に関連する幅広い情報の収集に努めているか。
5		児童生徒の実態を考慮して教材解釈をしている。			<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもたせ、学習意欲を高めるようにしているか。 普段の生活の様子等を考慮するようにしているか。
6		ねらいや実態に合う教具や資料を選択したり、開発したりしている。			<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や学習のねらいを明確にした上で教材解釈をするようにしているか。 学年や教科、校種間の系統性を意識するようにしているか。
7	授業構成力	単元や各時間のねらいを明確にして指導計画を立案している。			<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒実態等を考慮して、時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てているか。 児童生徒の実態等を考慮して、適切な時間配分を行うようにしているか。
8		ねらいに迫るために学習過程を工夫している。			<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じて進め方や形態を工夫しているか。 適切な教材、教具、資料を用いようとしているか。 教えるべきことと考えさせることが明確になるようにしているか。
9		適切な評価計画を立て、評価の場面を設定している。			<ul style="list-style-type: none"> ねらいに応じて評価規準を設定しているか。 ノート、発言、机間指導など、評価場面を具体的に設定しているか。
10	授業実践力	板書を構造化し、効果的な板書計画を立てている。			<ul style="list-style-type: none"> 授業の展開が見えるように、分かりやすく板書しているか。 チョークの色やライン、囲み等を工夫して、大事なところを示しているか。
11		発問、指示を適切に行っている。			<ul style="list-style-type: none"> ねらいに迫る発問を行っているか。 思考を広げたり深めたりする発問を行っているか。 簡潔ですべきことが分かりやすい指示を出すように心掛けているか。
12		児童生徒の学習状況に応じて、臨機応変に対応している。			<ul style="list-style-type: none"> 発言や反応、つぶやきを受けて柔軟な対応をすることができるか。 机間指導等を行い、個に応じた適切な指導・助言をしているか。 児童生徒の学習状況を把握し、必要に応じて計画を修正して指導しているか。
13	授業改善力	互いを高め合う学習集団づくりを行っている。			<ul style="list-style-type: none"> お互いのよさを認め合う場面を設定しているか。 発言をつなげ、集団での学び合いとなるようにしているか。 話し方や聞き方、質問の仕方、発表の仕方などの基本的な学習習慣を指導しているか。
14		評価計画に基づいて評価している。			<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに評価しているか。 評価結果を個に応じた指導に活かしているか。 単元を通して評価結果を累積しているか。
15		学習環境を整備している。			<ul style="list-style-type: none"> 環境美化に配慮し、掲示物を工夫するなど学習活動に適した教室環境をつくらせているか。
16	授業改善力	授業を反省し、振り返っている。			<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の反応や評価結果から授業を振り返っているか。 他の教員に授業を見てもらい、客観的に自分の指導を振り返っているか。
17		授業について教員間で話し合っている。			<ul style="list-style-type: none"> よりよい指導の仕方または実践上の悩み等を進んで話題にし、解決を図っているか。 他の教員の助けとなるように自分の意見を積極的に述べているか。
18		成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。			<ul style="list-style-type: none"> 授業の課題を明らかにし、次の授業の計画に活かしているか。 自分の課題や追求テーマに基づいた授業を実践しているか。

※入力には色の付いた部分のみです。

目次

印刷

入力クリア

評価の基準		
評価尺度	量的達成度	評価値
非常に当てはまる	<div style="width: 100%; height: 10px; background-color: red;"></div>	10
かなり当てはまる	<div style="width: 90%; height: 10px; background-color: orange;"></div>	9
わりに当てはまる	<div style="width: 80%; height: 10px; background-color: yellow;"></div>	8
少し当てはまる	<div style="width: 70%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	7
わずかに当てはまる	<div style="width: 60%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	6
	<div style="width: 50%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	5
	<div style="width: 40%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	4
	<div style="width: 30%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	3
	<div style="width: 20%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	2
	<div style="width: 10%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	1

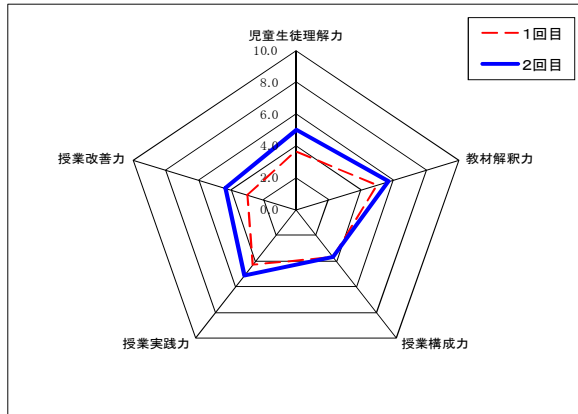
評価の基準		
評価尺度	量的達成度	評価値
非常に当てはまる	<div style="width: 100%; height: 10px; background-color: red;"></div>	10
かなり当てはまる	<div style="width: 90%; height: 10px; background-color: orange;"></div>	9
わりに当てはまる	<div style="width: 80%; height: 10px; background-color: yellow;"></div>	8
少し当てはまる	<div style="width: 70%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	7
わずかに当てはまる	<div style="width: 60%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	6
	<div style="width: 50%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	5
	<div style="width: 40%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	4
	<div style="width: 30%; height: 10px; background-color: lightgreen;"></div>	3
	<div style="width: 20%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	2
	<div style="width: 10%; height: 10px; background-color: lightblue;"></div>	1

○結果シート例

結果シート

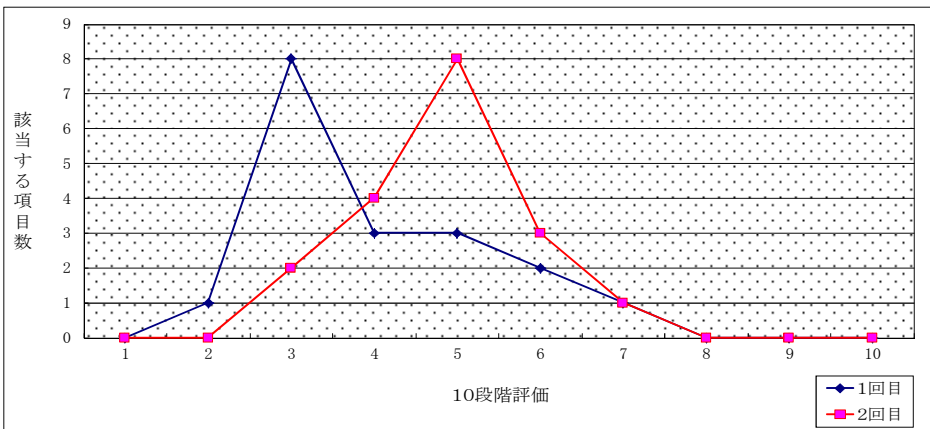
職名	氏名	実施年度	平成	年度
----	----	------	----	----

分類ごとの平均		
	1回目	2回目
児童生徒理解力	3.7	5.0
教材解釈力	5.0	5.7
授業構成力	3.7	3.7
授業実践力	4.3	5.2
授業改善力	3.0	4.3



評価値ごとの診断項目数【1回目】										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力			2	1						
教材解釈力		1			2					
授業構成力		2	1							
授業実践力		2	2	1		1				
授業改善力	1	1	1							

評価値ごとの診断項目数【2回目】										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力					3					
教材解釈力				1	2					
授業構成力			2	1						
授業実践力			2	2	1	1				
授業改善力				2	1					



目次

印刷

番号	分類	診断項目	評価	
			1回目	2回目
1	児童生徒理解力	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようとしている。	5	5
2		児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようとしている。	3	5
3		児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。	3	5
4	教材解釈力	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。	3	5
5		児童生徒の実態を考慮して教材解釈をしている。	6	6
6		ねらいや実態に合う教具や資料を選択したり、開発したりしている。	6	6
7	授業構成力	単元や各時間のねらいを明確にして指導計画を立案している。	5	5
8		ねらいに迫るために学習過程を工夫している。	3	3
9		適切な評価計画を立て、評価の場面を設定している。	3	3
10	授業実践力	板書を構造化し、効果的な板書計画を立てている。	7	7
11		発問、指示を適切に行っている。	3	5
12		児童生徒の学習状況に応じて、臨機応変に対応している。	4	4
13	授業改善力	互いを高め合う学習集団づくりを行っている。	5	5
14		評価計画に基づいて評価している。	4	4
15	授業改善力	学習環境を整備している。	3	6
16		授業を反省し、振り返っている。	2	4
17		授業について教員間で話し合っている。	4	4
18		成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。	3	5

○目標設定シート記入例

目標設定シート

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施
----	----	----	-------	----

評価値が低い項目を確認

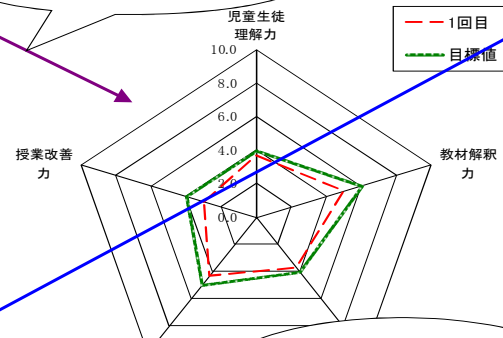
目標値の設定

分類ごとの平均	評価値ごとの診断項目数【1回目】	
	1回目	目標値
児童生徒理解力	3.7	4.0
教材解釈力	5.0	6.0
授業構成本力	3.7	4.0
授業実践力	4.3	5.0
授業改善力	3.0	4.0

診断項目	評価値ごとの診断項目数【1回目】									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力		2			1					
教材解釈力		1				2				
授業構成本力		2		1						
授業実践力		2	2	1		1				
授業改善力		1	1							

自校の校内研究	
研究主題	確かな学力を身に付けた生徒の育成
副題	主体的な学びを引き出す指導の工夫を通して
研究の視点 (重点実践内容)	① 考えを引き出す課題提示の工夫
	② 考えや思考の過程がノートに表れる指導の工夫
	③
	④
	⑤

レーダーチャートに表示



「校内研究で取り組む」か「個人で取り組む」かを選択

できるだけ具体的に書きたいが、難しい場合は、実践しながら見直していく

※本年度、高めたいと考えている授業力の診断項目番号を○をつけてください。

番号	高めたい授業力の診断項目	取組の方向性	向上のための具体的手だて
2	児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようと努めている。	校内研究で取り組む	適用問題に取り組む場面で、ねらいに関わる学習内容の定着状況を把握するための問題を設定し、ノートでチェックする。
3	児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。	個人で取り組む	共感的な受け止めのスキルを高めるため、書籍や研修会に参加すると共に、普段の授業で心掛けていく。
4	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。	校内研究で取り組む	考えを引き出す課題提示ができるように、教材や資料の分析を行う。
11	発問、指示を適切に行っている。	校内研究で取り組む	課題提示の場面で、生徒の反応に応じて発問や指示の仕方を複数準備し、課題解決のための思考を促すようにする。
15	学習環境を整備している。	個人で取り組む	教室に学習コーナーを設け、学習係の役割を確認し、掲示物を工夫する。
16	授業を反省し、振り返っている。	個人で取り組む	週案を活用し、生徒の反応やねらいの達成状況から授業を反省し、次回の指導に生かすようにする。
18	成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。	校内研究で取り組む	授業研究で他の先生方の実践から学んだことを自分の授業に取り入れて実践していく。

目次

番号	分類	診断項目	評価	
			1回目	2回目
1	児童生徒理解力	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようと努めている。	5	5
2		児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようと努めている。	3	5
3		児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。	3	5
4	教材解釈力	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。	3	5
5		児童生徒の実態を考慮して教材解釈をしている。	6	6
6		ねらいや実態に合う教材や資料を選択したり、開発したりしている。	6	6
7	授業構成本力	単元や各時間のねらいを明確にして指導計画を立案している。	5	5
8		ねらいに迫るために学習過程を工夫している。	3	3
9		適切な評価計画を立て、評価の場面を設定している。	3	3
10		板書を構造化し、効果的な板書計画を立てている。	7	7
11		発問、指示を適切に行っている。	3	5
12	授業実践力	児童生徒の学習状況に応じて、臨機応変に対応している。	4	4
13		互いを高め合う学習集団づくりを行っている。	5	5
14		評価計画に基づいて評価している。	4	4
15	授業改善力	学習環境を整備している。	3	6
16		授業を反省し、振り返っている。	2	4
17		授業について教員間で話し合っている。	4	4
18		成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。	3	5

○目標実現シート記入例

校内研究で取り組む項目		
番号	高めたい授業力の診断項目	優先順
2	児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようと努めている。	4
4	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。	2
11	発問、指示を適切に行っている。	1
18	成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。	3

個人で取り組む項目		
番号	高めたい授業力の診断項目	優先順
3	児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。	3
15	学習環境を整備している。	1
16	授業を反省し、振り返っている。	2

目標実現シート

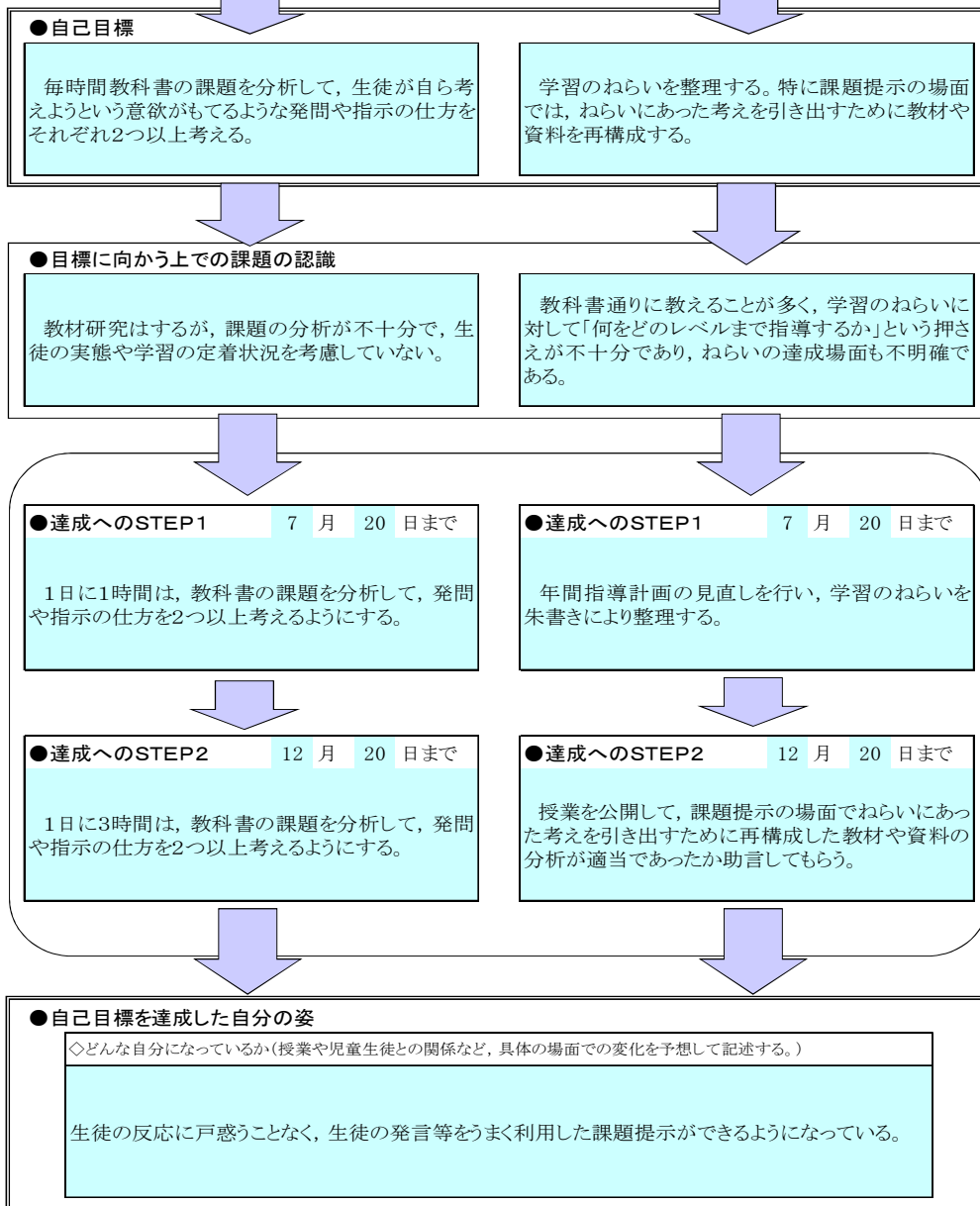
※入力は、色の付いた部分のみです。

(1枚目)

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

校内研究で取り組む	
11	発問、指示を適切に行っている。
手だて	課題提示の場面で、生徒の反応に応じて発問や指示の仕方を複数準備し、課題解決のための思考を促すようにする。

校内研究で取り組む	
4	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。
手だて	考えを引き出す課題提示ができるように、教材や資料の分析を行う。



目次

目標実現シート 記入の順序

①優先順を決定する
「校内研究で取り組む項目」と「個人で取り組む項目」のそれぞれの項目の中で、**取組の優先順**を決めます。

②自己目標を設定する
1つ目は、「校内研究で取り組む」項目で**自己目標**を記述しますが、2つ目以降は、「校内研究で取り組む」か「個人で取り組む」か「設定しない」かの3択から方針を決定します。

③目標に向かう上での課題を認識する
自己目標を設定した項目に関する**自分の現在の状況**を、これまでの取組を振り返って記述します。

④スモールステップを設定する
自己目標達成へ向けた取組を**スモールステップ**化して、達成の期限も目安として記述します。

⑤自己目標を達成した自分の姿を予想する
自己目標を達成したときに起きるであろう**自分の変化**を想定して、**自分の姿**として記述します。

目標実現シート

(2枚目)

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

番号	個人で取り組む
15	学習環境を整備している。
手だて	教室に学習コーナーを設け、学習係の役割を確認して掲示物を工夫させる。

番号	
手だて	

●自己目標

学習係の役割として、学習コーナーの充実を新たに設定し、月ごとに内容を刷新していくような運営の方法を工夫する。

●目標に向かう上での課題の認識

学習コーナーはなく、学習係の役割も翌日の授業準備物の連絡のみになっている。

●達成へのSTEP1

4 月 30 日まで

- ・学習コーナーを設ける。
- ・学習係の役割を確認する。

●達成へのSTEP2

7 月 20 日まで

月に一度、学習係会議を放課後に設定し、学習コーナーの運営状況を確認して、月ごとに内容が新しくなっているか確認するようにする。

●達成へのSTEP1

月 日まで

●達成へのSTEP2

月 日まで

●自己目標を達成した自分の姿

◇どんな自分になっているか(授業や児童生徒との関係など、具体的場面での変化を予想して記述する。)

クラスの子供たちが学んだことを自由に振り返ることが可能になって、基礎・基本となる知識・技能が定着し、授業の課題解決の見通しをもつ場面で既習内容を活用した考え方が引き出せるようになる。

注意すること

※1
このシートの2枚目には、項目や手だてが転記されていません。
1枚目で設定した自己目標の達成状況に合わせて、活用してください。
※2
4枚目以降は、必要に応じてコピーしてください。

○まとめシート記入例

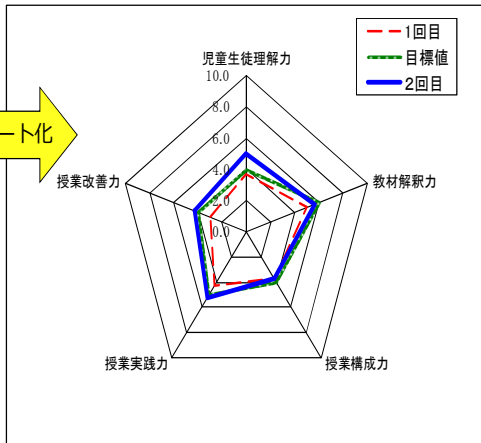
まとめシート

※入力の色が付いた部分のみです。(1枚目)

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

分類ごとの平均			
	1回目	目標値	2回目
児童生徒理解力	3.7	4.0	5.0
教材解釈力	5.0	6.0	5.7
授業構力	3.7	4.0	3.7
授業実践力	4.3	5.0	5.2
授業改善力	3.0	4.0	4.3

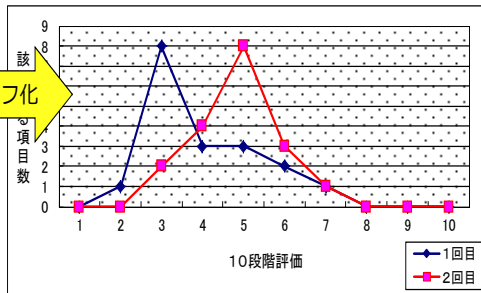
チャート化



評価値ごとの診断項目数【1回目】										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力			2		1					
教材解釈力		1				2				
授業構力			2		1					
授業実践力			2	2	1		1			
授業改善力	1	1	1							

評価値ごとの診断項目数【2回目】										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童生徒理解力					3					
教材解釈力					1	2				
授業構力			2		1					
授業実践力			2	2	1	1				
授業改善力	2	1								

グラフ化



校内研究で取り組む項目の振り返り	
11	発問、指示を適切に行っている。
手だて	課題提示の場面で、生徒の反応に応じて発問や指示の仕方を複数準備し、課題解決のための思考を促すようにする。
目標	毎時間教科書の課題を分析して、生徒が自ら考えようという意欲がもてるような発問や指示の仕方をそれぞれ2つ以上考える。
達成度評価	できたこと / できなかったこと
C	毎時間ではないが、教科書の課題分析をする習慣が付いた。 / 毎時間の教科書の課題分析ができなかった。
STEP1	1日に1時間は、教科書の課題を分析して、発問や指示の仕方を2つ以上考えるようにする。
達成度評価	できたこと / できなかったこと
S	時には3つ以上の発問や指示の仕方を考えることができた。 / 特に無し。
STEP2	1日に3時間は、教科書の課題を分析して、発問や指示の仕方を2つ以上考えるようにする。
達成度評価	できたこと / できなかったこと
B	3時間以上できたときもあった。 / 他の仕事と重なって、十分にできない時があった。
改善の方向性	
毎時間は厳しい。傾向を分析して、発問や指示のパターン化を進めていく。	

校内研究で取り組む項目の振り返り	
4	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。
手だて	考えを引き出す課題が提示できるように、教材や資料の分析を行う。
目標	学習のねらいを整理する。特に課題提示の場面では、ねらいに合わせた教材や資料を再構成する。
達成度評価	できなかったこと
B	本時の学習のねらいは何かを意識するようになった。 / 再構成のための十分な分析ができたとは言いきれない。
STEP1	毎時間の学習のねらいを整理し、書きにより整理する。
達成度評価	できなかったこと
A	毎時間の学習のねらいを整理し、書きにより整理できた。
STEP2	授業を公開して、課題提示の場面でねらいにあった考えを引き出すために再構成した教材や資料の分析が適切であったか助言してもらう。
達成度評価	できなかったこと
A	授業研究の場面でねらいを3回行い、助言を受けた。 / 公開授業の参観観点をもって参加するべきであった。
改善の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画におけるねらいの整理を引き続き行う。 参観する際の参観観点に設定する。 	

5段階評価

「目標」「STEP1」「STEP2」について、達成度評価、できたこと、できなかったことの3点で振り返る

次年度へ向けて、改善の方向性を示す

目次

番号	分類	診断項目	評価	
			1回目	2回目
1	児童生徒理解力	児童生徒の学習意欲をいろいろな見方で把握しようと努めている。	5	5
2		児童生徒の学習内容の定着状況を把握しようと努めている。	3	5
3		児童生徒の発言や行動等を共感的に受け止めている。	3	5
4	教材解釈力	授業に用いる教材や資料の分析を行っている。	3	5
5		児童生徒の実態を考慮して教材解釈をしている。	6	6
6		ねらいや実態に合う教具や資料を選択したり、開発したりしている。	6	6
7	授業構力	単元や各時間のねらいを明確にして指導計画を立案している。	5	5
8		ねらいにせまるために学習過程を工夫している。	3	3
9		適切な評価計画を立て、評価の場面を設定している。	3	3
10	授業実践力	板書を構造化し、効果的な板書計画を立てている。	7	7
11		発問、指示を適切に行っている。	3	5
12		児童生徒の学習状況に応じて、臨機応変に対応している。	4	4
13	授業改善力	互いを高め合う学習集団づくりを行っている。	5	5
14		評価計画に基づいて評価している。	4	4
15		学習環境を整備している。	3	6
16	授業改善力	授業を反省し、振り返っている。	2	4
17		授業について教員間で話し合っている。	4	4
18		成果や課題及び改善策等を授業に取り入れて実践している。	3	5

まとめシート

(2枚目)

個人で取り組む 項目の振り返り		
15	学習環境を整備している。	
手だて	教室に学習コーナーを設け、学習係の役割を確認して掲示物を工夫する。	
目標	学習係の役割として、学習コーナーの充実を新たに設定し、月ごとに内容を刷新していくような運営の方法を工夫する。	
達成度評価	できたこと	できなかったこと
B	刷新とまではいかなかったが、学習コーナーを充実させることができた。	掲示物の刷新と、生徒の自主性を引き出す手だて
STEP1	・学習コーナーを設ける。 ・学習係の役割を確認する。	
達成度評価	できたこと	できなかったこと
S	学習コーナーを設けた。学習係を活用した。	特に無し。
STEP2	月に一度、学習係会議を放課後に設定し、学習コーナーの運営状況を確認して、月ごとに内容が新しくなっているか確認するようにする。	
達成度評価	できたこと	できなかったこと
A	学習係会議を実施した。	問題点の話し合いや改善策を考えさせたが、生徒を十分に動かすことができなかった。
改善の方向性		
役割に対するやりがいをもたせ、自主的に掲示物の刷新が進むような働き掛けを工夫する。		

項目の振り返り		
手だて		
目標		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP1		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP2		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
改善の方向性		

項目の振り返り		
手だて		
目標		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP1		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP2		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
改善の方向性		

項目の振り返り		
手だて		
目標		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP1		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
STEP2		
達成度評価	できたこと	できなかったこと
改善の方向性		

指導案シート

■シートについて

「指導案シート」とは・・・

- ・研究授業の際に使用する略案形式の学習指導案です。
- ・学習過程の中に参観者が学んだことや気付いたことを記述するための欄を設けています。
- ・学習過程の中に授業者が校内研究と関連付けた自己目標達成のための「私の提案」を記述することができます。
- ・参観者が学んだことや気付いたことを記述し、ファイルすることを前提としていますので、事後検討会で付箋を使用する場合には、記述内容が紛失しないように配慮が必要です。
- ・様式と作成例を参考に、各自で作成してください。

Word Ver.

指導案シート様式

指導案シート作成例

一太郎 Ver.

指導案シート様式

指導案シート作成例

【参観の観点の設定：自己目標に照らし合わせて、どの場面で、何を見取りますか？】

【どの場面で】

【何を】

○「3 折り方や学習の進め方を確認する」

○ねらいや実態に合う教具や資料を選択したり開発したりしているか

算数科学習指導案シート

平成〇年〇月〇日 () 〇校時
場 所 2年〇組教室
指導者 □□ □□

1 単元名 「分けた大きさをあらわそう (分数)」

2 本時の指導

(1) 目標

四半分にした大きさを四分の一といい、 $\frac{1}{4}$ と書くことを理解する。

(2) 本時の提案

【視点1】 児童の学習意欲を高めるための導入の工夫

・場面絵と既習事項の活用

【視点2】 算数的活動にスムーズに取り組みさせるための支援の工夫

・作業の際の留意点一覧表の活用

【視点3】 自分の考えを深め、高め合う場の工夫

・学習形態の工夫

(3) 私の提案 (関連：研究の視点3 高めたい授業力：授業実践力)

・キーワードを設定し、それを基に教員が発表やつぶやきの中のキーワードを活用したり、誤答を活用したりして、児童が考えを深めたり高めたりする支援とする。

【自己目標】 児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫ること

(4) 評価規準

	具体的評価項目	十分満足できる(A)	支援を要する児童への具体的支援
数学的な思考	1/4の大きさは、もとの大きさによって、いろいろあることに気付いている。	1/4の大きさとその元になる大きさの関係に触れながら、理由を説明することができる。	いろいろな1/4の大きさとその元になる大きさの組合せを見せながら、基の大きさが変わると1/4の大きさもいろいろになることに気付かせる。
知識・理解	四半分に分けた1つ分を、元の大きさの四分の一といい、1/4と書くことを理解している。	4つあればよいことに気づき、1/4の大きさと元になる大きさとの関係から理由を説明することができる。	①元の大きさを4つに分けたのだから4つ集めると元の大きさになることを図を見せながら説明し理解させる。②1/4の大きさ4つを元の大きさに敷き詰めさせて、4つ必要であることを実感をもって理解させる。

(5) 板書計画

長方形を半分の半分において切りましょう

もとの大きさ
長方形

→

4等分
例1

4等分
例2

↘

4等分
例3

・長方形が4つ (直角三角形が4つ)
・ぴったり重なった
・形も大きさも同じ

同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一という。

$\frac{1}{4}$ …③
 $\frac{1}{4}$ …① と書く。
4 …②

□ は、 $\frac{1}{4}$ の大きいです。□ を

いくつ集めると $\frac{1}{4}$ になりますか。

4つ (もとの大きさとぴったりかさなるから)

もとになる大きさ おる回数

	1
	2
	3

1 …③ 同じ大きさに8つに分け

$\frac{1}{8}$ …① た1つ分をもとの大きさ

8 …② の八分の一

↑ ↓

※ $\frac{1}{4}$ の半分を3回分けて切る

(6) 学習過程

導入	主な学習の流れ (◇主な発問)	予想される児童の反応	指導上の留意点 (※は支援, ◎は評価基準と方法)
3分	<p>1 既習内容と4等分することを比べ、学習内容に関心を高める。</p> <p>◇ピザをどう分けていますか。</p> <p>◇半分にしてまた半分にするとはいくつに分けることですか。</p> <p>◇前の時間と違う点は何ですか。</p>	<p>・今日は、ピザだ。</p> <p>・こうです。(身振り)</p> <p>・半分の半分です。</p> <p>・4つです。</p> <p>・2つじゃなく4つに分けるところ。</p>	<p>【視点1】 児童生徒の学習意欲を高めるための導入の工夫</p> <p>提案1：ピザの場面絵を用いて児童が生活場面と学習内容を結び付けて考えたり、前時1/2の学習内容を活かして四半分をした大きさの表し方を推察させたりして、学習内容に関心を高める。</p>
視点1	<p>【提案1について (よさやアドバイス、気付いたこと等、※改善点は質問形式で)】</p> <p>○ピザの場面絵を用いたことは、生活場面を想起させ、また既習事項と結び付けて考えやすく関心を高める上で有効だった。</p> <p>○児童の反応から、前時の学習内容が定着していることがうかがえた。</p> <p>※「1/4」という声がかいてきたので、その意味を発表させてから本当にそうなるのか確かめていくような指導案にはない臨機応変な進め方をしていたらどうなっていたでしょうか。</p>		
	<p>2 問題文を読み題意をつかむ。</p> <p>長方形の紙を半分の半分において切りましょう。</p>		

	◇半分にする回数は、前の時間よりも何回多いですか。	・1回です。	・前時の操作活動と比べることで、操作の見通しをもたせる。
展開 32分	3 折り方や学習の進め方を確認する ◇折り方や切り方、間違っただけについて、説明する。 ◇例2, 例3に取り組みましょう。	・表を見たり、前時のことを思い出しながら、説明を聞いている。 ・2つするんだね。	【視点2】算数的活動にスムーズに取り組みせるための支援の工夫 提案2 ：操作をスムーズに行わせてねらい迫るために、折り方や切り方及び間違っただけの留意点を一覧表（うまくいくこつ）にまとめていつでも確認できるようにしたり、一覧表に対応しながら示範したりする。
視 点 2	4 各自、長方形の紙を折って切る。 ◇長方形の紙を半分の半分に折って切りましょう。	・半分の半分に折って紙を切っている。 ・表で確認している。	※進まない児童には教師が切った紙を渡す。早い児童には他の切り方もさせる。
	【提案2について（よさやアドバイス、気付いたこと等、※改善点は質問形式で） ○「うまくいくこつ（留意点一覧表）」は、耳の他に目で確認できるので、視覚からの方が理解しやすい児童により支援となった。いつでも確認可能なので、全員の支援にもなっていた。 ○教師の説明（言葉・示範）と「うまくいくこつ（留意点一覧表）」を結び付けて行った進め方は、2年生にとって理解しやすいとその後の児童の作業の様子を見て感じた。		
	5 切った紙を確認し、気付いたことを話し合う。 6 「四分の一」について知る。 同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一といひ、1/4と書きます。	・ぴったり重なった。 ・長方形が4つできた。	・児童の紙や黒板に貼った紙も重ねて見せ、それぞれがぴったり重なることを確認する。 ※元の大きさと単位分数の関係を確認し、次の問題に取り組む際の支援とする。
	◇1/4の定義と書き方をまとめ、用語「分数」を知らせる。	・やっぱり1/4だ。 ・分数って言うんだ。	【私の提案】 児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫ること
私 の 提 案	7 1/4を理解したか確認する。 ①1/4をいくつ集めると元の大きさになりますか。ノートに答えと理由を書きましょう。 ◇発表を通して考え方を共有する。 ②1/4はいろいろあるのは、何が違うからですか。ノートに書きましょう。 ◇発表を通して考え方を共有する。 ◇同じ大きさに4つに切ったうちのピザ1つをなんとと言いますか。	・3つです、4つです。 ・同じ形が4つ。 ・4つで元の大きさとぴったり重なる。 ・1つを4つに分けたから、くっつけたら元の大きさになるから。 ・元の大きさがいろいろ違うからです。 ・1/4です。	提案3 ：本時のまとめや既習事項から「元の大きさ」「同じ形」「4つに分けた」「ぴったり重なる」「合わせる」をキーワードとする。 発表やつぶやきの中のキーワードを拾って反復したり強調したりする等して活用を図り、理解の支援とするとともに誤答を活用して正しく理解できるようにする。 ◎①知識・理解（ノート） ◎②数学的な考え方（ノート）
	【提案について（よさやアドバイス、気付いたこと等、※改善点は質問形式で） ○あらかじめキーワードを決めたことで、発表者にはなかったつぶやきを取り上げることにつながっていた。さらに、つぶやきを児童全体に戻していたことは、その言葉をイメージして考え、その言葉も使って説明しようとするのに役立っていた。 ※せっかくキーワードを準備したのだから、ノートの見取りの際に活かすと効率よく行うことができ、もっとたくさんの児童の考えの見取りが可能になったのではないのでしょうか。いかが。 ○見取る際に、「〇〇ちゃん、いいね。」等と名前を入れながら考えのよさをクラスに広めていったやり方は、児童が安心感を持ち頑張りやすい気持ちになる上でよかったと思います。		
	8 適用問題に取り組む。	・習得した知識を活用し1/8を理解する。	・「長さ＝大きさ」であることを押さえ、分数の考え方が使えることを確認する。
終末 10分	9 今日の授業を振り返る。 10 「算数のおはなし」に取り組む。	・分かったことを書く。 ・1/8作りに取り組む。	・分かったことや大事だと思うことを書くように声がけする。 ・3回半分に折って切るよう声がけする。
	【その他なんでも】 ○板書が3分割で構成されていて内容を捉えやすかった。また、教具を多くし実際に児童が視写する部分を精選したのもよかった。 ○学習した内容の要点を学習コーナーに掲示し増やしていくと、児童がいつでもそれらを参考に考えることができよかったです。 ※ピザは円なので実際に4等分するのは難しいと思います。長方形のピザの絵の方が黒板に貼った教具とも形が一致するので、場面絵と教具がより結び付いて考えられたのではないのでしょうか。 ○留意点の書き方が、参考になりました。 ※提案部分で学んだことや気付いたことを、他の単元や他の教科で使えるように一般化を図るとしたらどのように書き表したらよいでしょうか。下記の欄に書き出してください。		
	手だて（○）	手だての内容（・）	指導上の留意点（◇）
	○児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫る。	・発表やつぶやきの中のキーワードを拾って活用を図り、理解の支援とする。	◇教材研究であらかじめキーワードを考え、準備して授業に臨む。 ◇キーワードを使っている児童をほめたり、まとめに用いたりして活用を促す。

見合いシート

■シートについて

「見合いシート」とは・・・

- ・研究授業後の授業の見合いの取組の際に使用する学習指導案です。
- ・学習過程の中に参観者が学んだことや気付いたことを記述するための欄を設けています。
- ・学習過程の中に授業者が校内研究と関連付けた自己目標達成のための「私の提案」を記述します。
- ・参観者が学んだことや気付いたことを記述し、ファイルすることを前提としていますので、参観者が原本をファイルし、授業者には見合いシートをコピーして手渡します。
- ・様式と作成例を参考に、各自で作成してください。

分類	Word Ver.		一太郎 Ver.	
① A4版1ページ以内で作成 (授業での提案が2つの場合)	様式	作成例	様式	作成例
② A4版1ページ以内で作成 (授業での提案が1つの場合)	様式	作成例	様式	作成例
③ A4版2ページ(裏表)で作成	様式	作成例	様式	作成例
④ A3版1枚で作成	様式	作成例	様式	作成例

見合いシート作成例① (授業での提案が2つの場合)

算数科学習指導案シート

平成○年○月○日 (○) ○校時
 場所 ○年○組教室
 指導者 □□ □□

- 1 単元名 「新しい計算を考えよう (かけ算)」
- 2 本時の指導

(1) 目標

5の段の九九の構成の仕方を理解する。

(2) 私の提案【関連：研究の視点3 向上させたい授業力：授業実践力】

- ・それぞれの考え方のよさを取り上げながら、「素早く・正確に」という視点を示すことで、児童の発言の中からよりよい求め方に気付いていくことができるように支援していく。

【視点3】自分の考えを深め、高め合う場の工夫

【自己目標】それぞれの考え方の中から、「素早く・正確に」答えを求める方法を、児童が気付いていけるように話し合いを深めさせていく。

(3) 評価

- ・5の段の九九を構成することができる。【技能】(観察・発表・ノート)

(4) 学習過程

主な学習の流れ (◇主な発問)	予想される児童の反応	指導上の留意点 (※は評価の観点)
1 問題をとらえる。 おかしが1はこに5こずつ入っています。はこは、何はこかあります。おかしの数をしらべましょう。		
2 お菓子の箱が1～4箱の時の全部のお菓子の数を調べる。		<p>【私のテーマ】 それぞれの考え方の中から、「素早く正確に」答えを求める方法を、児童が気付いていけるように話し合いを深めさせていく。</p> <p>提案：よりよい求め方についての話し合いが深まらないような時には、教師から他の求め方を取り取り上げながら話し合いを深めさせていく。</p> <p>【提案について】 ○児童から出なかった「5とび」の数え方を教師が出し、おはじきを使って数えて見せたことは、「素早く・正確に」という観点を意識させる上でよかった。 ○2つの考えを比較して発表している児童の考え方のよさをほめることで、対比して発表するよさや話形が全体で共有するきっかけになったと思います。</p> <p>提案：児童が「自分達で気付くことができた」という思いで話し合いを進めていくことができるよう配慮する。</p> <p>【提案について】 ○「素早く・正確に」という観点を出した際児童から出た「楽ちん」という言葉を素早く拾って使ったことは、「素早く・正確に」という言葉を2年生に身近に捉えさせる上で有効だったと思う。だから、「20+5」のよさを考えた時に、ずばり「式が短いから」という考えが児童からすぐに出たのだと思いました。</p>
3 お菓子の箱が5箱の時、お菓子は全部で何個になるか考える		
4 1箱から順に箱の数を増やしていった時のお菓子の数を求める式と答えについて話し合う。 【9:40】 ◇答えの求め方について確認する ◇様々な求める方法から、よりよい求め方について話し合う。 ◇アレイ図を使って確かめていく	<ul style="list-style-type: none"> ・5とびで数えた。 ・$5+5+5+5+5=25$ ・4箱分で20個だから20個に5個をたして25個になる。 ・$20+5$ <ul style="list-style-type: none"> ・5×4の答えに5を足すと素早く・正しくできる。 	
5 お菓子の箱が6～9箱になるとお菓子は全部で何個になるかを考える。 6 $5 \times 1 = 5 \sim 5 \times 9 = 45$ まで書き並べたものを見て、5の段の九九の答えの求め方についてまとめる。 7 次時は5の段の九九の唱え方について学習することを知る。		

【その他なんでも】

- 「 $10+10+5$ 」という考えを「1あたり量」の考え方からふるいにかけては、児童に「1あたり量」の大切さを意識させる上で大切だと思いました。その点に触れてよかったです。」
- ※留意点にある「話し合いを深めさせる」という言葉を具体的な言葉で書くと、授業者の考えや思いが参観者に明確に伝わるのではと思いましたがいかがでしょうか。

※提案部分で学んだことを、他の単元や他の教科で使えるように一般化を図るとしたらどのように書き表したらよいでしょうか。下記の欄にお書きください。

手だて (○)	手だての内容 (・)	指導上の留意点 (◇)
○多様な考えを、ある観点から焦点化する。	・「素早く・正しく」という観点から 5×5 の答えの見つけ方を焦点化する。	◇ねらいに最も近い考え($20+5$)と遠い考え($5+5+5+5+5=25$)を比較・検討させるとよい。 ◇比較の際は極端な例示も有効である

見合いシート作成例②

算数科学習指導案シート

平成〇年〇月〇日 (〇) 〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 □□ □□

1 単元名 「分けた大きさをあらわそう (分数)」

2 本時の指導

(1) 目標

四半分にした大きさを四分の一といい、 $\frac{1}{4}$ と書くことを理解する。

(2) 私の提案【関連：研究の視点3 向上させたい授業力：授業実践力】

・キーワードを設定し、それを基に教員が発表やつぶやきの中のキーワードを活用したり、誤答を活用したりして理解の支援とする。

【視点3】自分の考えを深め、高め合う場の工夫

【自己目標】児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。

(3) 評価

・1/4の大きさは、もとの大きさによって、いろいろあることに気付いている。(数学的な思考、ノート)

・四半分に分けた一つ分を、もとの大きさの四分の一といい、1/4と書くことを理解している。(知識・理解、ノート)

(4) 学習過程

主な学習の流れ (◇主な発問)	予想される児童の反応	指導上の留意点 (※は評価の観点)
1 既習内容と4等分することを比べ、学習内容に関心を高める 2 問題文を読み題意をつかむ。 長方形の紙を半分の半分において切りましょう。 3 折り方や学習の進め方を確認する。 4 各自長方形の紙を折って切る。 5 切った紙を確認し、気付いたことを話し合う。 6 「四分の一」について知る。 同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一といい、1/4と書きます。		
7 1/4を理解したか確認する。 【10:00】 ◇1/4をいくつ集めると元の大きさになりますか。ノートに答えと理由を書きましょう。 ◇考えを聞いて、自分の考えをまとめましょう。 提案：「キーワード」を基に児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。	・3つです。 ・4つです。 ・4つで元の大きさに戻るからです。 ・1つを4つに分けたから、くっつけたらもとの大きさになるから	【私のテーマ】 児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。 提案：本時のまとめや既習事項から「元の大きさ」、「同じ形」、「4つに分けた」、「ぴったり重なる」「合わせる」をキーワードとする。 発表やつぶやきの中のキーワードを拾って反復したり強調したりする等して活用を図り、理解の支援とするとともに、誤答を活用して正しく理解できるようにする。 ※知識・理解 (ノート)
【提案について (よさやアドバイス、気付いたこと等)】 ○あらかじめキーワードを決めたことで、発表者にはなかったつぶやきを取り上げることにつながっていた。さらに、つぶやきを児童全体に戻していたことは、その言葉をイメージして考え、その言葉も使って説明しようとすることに役立っていた。 ※せっかくキーワードを準備したのだから、ノートの見取りの際に活かすと効率よく行うことができもっとたくさんの児童の考えの見取りが可能になったのではないのでしょうか。いかがですか。 ○見取る際に、「〇〇ちゃん、いいね。」と名前を入れながら考えのよさをクラスに広めていったやり方は児童が安心感をもちもっと頑張るぞという気持ちになる上でよかったと思います。		
8 適用問題に取り組む。 9 今日の授業を振り返る。 10 「算数のおはなし」に取り組む		
【その他なんでも】 ○板書が3分割で構成されていて内容を捉えやすかった。また、教具を多くし実際に児童が視写する部分を精選したのもよかった。 ○学習した内容の要点を学習コーナーに掲示し増やしていくと、児童がいつでもそれらを参考に考えることができていると思った。		
※提案部分で学んだことを、他の単元や他の教科で使えるように一般化を図るとしたらどのように書き表したらよいでしょうか。下記の欄にお書きください。		
手だて (〇)	手だての内容 (・)	指導上の留意点 (◇)
○児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫る	・発表やつぶやきの中のキーワードを拾って活用を図り理解の支援とする。	◇キーワードを使っている児童をほめたり、まとめに用いたりして活用を促す。

見合いシート作成例③

算数科学習指導案シート

平成○年○月○日 (○) ○校時
 場 所 ○年○組教室
 指導者 □□ □□

1 単元名 「分けた大きさをあらわそう（分数）」

2 本時の指導

(1) 目標

1
 四半分にした大きさを四分の一といい、 $\frac{1}{4}$ と書くことを理解する。

(2) 私の提案【関連：研究の視点3 向上させたい授業力：授業実践力】

- ・キーワードを設定し、それを基に教員が発表やつぶやきの中のキーワードを活用したり、誤答を活用したりして理解の支援とする。

【視点3】自分の考えを深め、高め合う場の工夫
 【自己目標】児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。

(3) 評価

- ・1/4の大きさはもとの大きさによって、いろいろあることに気付いている。(数学的な思考, ノート)
- ・四半分に分けた一つ分を、もとの大きさの四分の一といい、1/4と書くことを理解している。(知識・理解, ノート)

(4) 主な学習の流れ

主な学習の流れ (太字：提案部分)	指導上の主な留意点 (※：評価 ◎：提案部分)
1 既習内容と4等分することを比べ、学習内容に関心を高める。	・ピザの場面絵を用いて児童が生活場面と学習内容を結び付けて考えたり、前時1/2の学習内容を活かして四半分にした大きさの表し方を推察させたりして、学習内容に関心を高める。
2 問題文を読み題意をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 長方形の紙を半分の半分におって切りましょう。 </div>	・前時の操作活動と比べることで操作の見通しをもたせる。
3 折り方や学習の進め方を確認する。	・操作をスムーズに行わせてねらい迫るために、折り方や切り方及び間違った場合の留意点を一覧表にまとめていつでも確認できるようにしたり、一覧表に対応しながら示範したりする。
4 各自長方形の紙を折って切る。	
5 切った紙を確認し、気付いたことを話し合う。	・児童の紙や黒板に貼った紙も重ねて見せ、それぞれがぴったり重なることを確認する。
6 「四分の一」について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一といい、1/4と書きます。 </div>	・元の大きさと単位分数の関係を確認し、次の問題に取り組む際の支援とする。
7 1/4を理解したか確認する。	◎提案部分 (詳細は裏面参照) ※評価
8 適用問題に取り組む。	・「長さ＝大きさ」であることを押さえ、分数の考え方が使えることを確認する。 ・分かったことや大事だと思うことを書くように声掛けをする。 ・3回、半分に折って切るよう声掛けし、紙を開いた際にしっかりと8等分になるようにする。
9 今日の授業を振り返る。	
10 「算数のおはなし」に取り組む	

(5) 学習過程の提案部分

提案部分に関わる学習部分 (◇主な発問)	予想される児童の反応	指導上の留意点 (※は評価の観点)
<p>7 1/4を理解したか確認する。 【10:00】</p> <p>◇1/4をいくつ集めると元の大き さになりますか。ノートに答え と理由を書きましょう。</p> <p>◇考えを聞いて、自分の考えをま とめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>提案：「キーワード」を基に 児童の発表や反応を受けて柔 軟に対応し、ねらいに迫る。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つです。 ・ 4つです。 ・ 4つで元の大きさに 戻るからです。 ・ 1つを4つに分けた から、くっつけたら もとの大きさになる から。 	<p>【私のテーマ】 児童の発表や反応を受けて柔軟に対応 し、ねらいに迫る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>提案：本時のまとめや既習事項から 「元の大きさ」「同じ形」「4つに分 けた」「ぴったり重なる」「合わせる 」をキーワードとする。 発表やつぶやきの中のキーワード を拾って反復したり強調したりする 等して活用を図り、理解の支援とす るとともに、誤答を活用して正しく理解 できるようにする。</p> </div> <p>※知識・理解（ノート） 1/4の大きさは、もとの大きさによっ ていろいろあることに気付いている。</p>
<p>【提案について（よさやアドバイス、気付いたこと等）改善点については質問形式で】</p> <p>○あらかじめキーワードを決めたことで発表者にはなかったつぶやきを取り上げることにつながっていた。さらに、つぶやきを見童全体に戻していたことは、その言葉をイメージして考えたり、その言葉も使って説明しようとしたりすることに役立っていた。</p> <p>※せっかくキーワードを準備したのだから、ノートの見取りの際に活かすと効率よく行うことができ、もっとたくさんの児童の考えの見取りが可能になったのではないのでしょうか。いかがですか。</p> <p>○見取る際に、「〇〇ちゃん、いいね。」と名前を入れながら考えのよさをクラスに広めていったやり方は児童が安心感をもち、もっと頑張るぞという気持ちになる上でよかったと思います。</p>		

<p>【その他なんでも】</p> <p>○板書が3分割で構成されていて内容を捉えやすかった。また、教具を多くし実際に児童が視写する部分を精選したのもよかった。</p> <p>○学習した内容の要点を学習コーナーに掲示し増やしていくと、児童がいつでもそれらを参考に考えることができよと思った。</p>

<p>※提案部分で学んだことを、他の単元や他の教科で使えるように一般化を図るとしたらどのように書き表したらよいでしょうか。下記の欄にお書きください。</p>		
手だて (○)	手だての内容 (・)	指導上の留意点 (◇)
<p>○児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫る</p>	<p>・発表やつぶやきの中のキーワードを拾って活用を図り理解の支援とする。</p>	<p>◇教材研究であらかじめキーワードを考え、準備して授業に臨む。</p> <p>◇キーワードを使っている児童をほめたりまとめに用いたりして活用を促す。</p>

見合いシート作成例④

算数科学習指導案シート

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 〇校時
場所 〇年〇組教室
指導者 〇〇 〇〇 〇〇

1 単元名 「分けた大きささをあらわそう (分数)」

2 本時の指導 目標

(1) 目標 四半分にした大きささを四分の一といい、 $\frac{1}{4}$ と書くことを理解する。

(2) 私の提案【関連：研究の視点3 向上させたい授業力：授業実践力】

・キーボードを設定し、それを基に教員が発表やつぶやきの中のキーボードを活用したり、誤答を活用したりして理解の支援とする。

【視点3】自分の考えを深め、高め合う場の工夫

【自己目標】児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。

(3) 評価

・ $\frac{1}{4}$ の大きさは、もとの大きさによって、いろいろあること気付いている。(数学的思考、ノート)
・四半分に分けた一つ分をもとの大きさの四分の一といい、 $\frac{1}{4}$ と書くことを理解している。(知識・理解、ノート)

(4) 主な学習の流れ

主な学習の流れ (太字：提案部分)	指導上の主な留意点 (※：評価◎：提案部分)
1 学習内容と4等分することを比べ、学習内容に関心を高める。	・ピザの場面絵を用いて児童が生活場面と学習内容を結び付けて考えたり、前時の学習内容を活かして四半分をした大きさの表し方を推察させたりして、学習内容に関心を高める。 ・前時の操作活動と比べることで、操作の見通しをもたせる。
2 問題文を読み課題をつかむ。 長方形の紙を半分半分において切りましよう。	・操作をスムーズに行わせてねらい迫るために、作業の留意点を一覧表にまとめていつでも確認できるようにしたり、一覧表に対応しながら示範したりする。 ・児童の紙や黒板に貼った紙を重ねて見せ、それぞれがびびり重なることを確認する。
3 折り方や学習の進め方を確認する。	・元の大きさと単位分数の関係を確認し、次の問題に取り組み際の支援とする。
4 各自長方形の紙を折って切る。	
5 切った紙を確認し、気付いたことを話し合う。	
6 「四分の一」について知る。 同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一といひ、 $\frac{1}{4}$ と書く。	
7 1/4を理解したか確認する。 ※評価	
8 適用問題に取り組む。	・「長さ＝大きさ」であることを押さえ、分数の考え方が使えることを確認する。
9 今日授業を振り返る。	・分かったことや大事だと思うことを書くように声がけする。
10 「算数のおはなし」に取り組む	・3回、半分に折って切るよう声がける。

(5) 学習過程の提案部分

提案部分に関する学習部分 (◇：主な発問)	指導上の留意点 (※は評価の観点)
7 1/4を理解したか確認する。 【10:00】 ◇1/4をいくつ集めると元の大きさになりますか。ノートに答えと理由を書きましょう。 ◇考えを聞いて、自分の考えをまとめましょう。	【私の提案】 児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、ねらいに迫る。 提案：本時のまとめや既習事項から「元の大きさ」「同じ形」「4つに分けた」「びびり重なる」「合わせる」をキーワードとする。 発表やつぶやきの中のキーボードを拾って反復したり強調したりする等して活用を図り、理解の支援とするとともに、誤答を活用して正しく理解できるようにする。 ※知識・理解 (ノート) $\frac{1}{4}$ の大きさは、もとの大きさによっていろいろあることに気付いている。
【提案について (よきやアドバイス、気付いたこと等) 改善点については質問形式で】	
○あらかじめキーボードを決めたことで、発表者にはなかったつぶやきを取り上げることに繋がっていた。さらに、つぶやきを見全体に戻したことは、その言葉にイメージして考えたり、その言葉も使って説明しようとしたことに役立っていた。	
※せっかくなので、ノートの見取りの際に活かすと効率よく行うことができ、もったなくさんの児童の見取りが可能になったのではないだろうか。いかがですか。	
○見取る際に、「〇〇ちゃん、いいね。」と名前を入れながら考えのよさをクラスに広めていったやり方は、児童が安心感をもち、もっと頑張るそという気持ちになる上でよかったと思います。	

【その他なんでも】

- 板書が3分割で構成されていて内容を捉えやすかった。また、教具を多くし実際に児童が視写する部分を精選したのもよかった。
- 学習した内容の要点を学習コーナーに掲示し増やしていくと、児童がいつでもそれらを参考に考えることができよかったです。

※提案部分で学んだことや気付いたことを、他の単元や他の教科で使えるように一般化を図るとしたらどのような書き表しをしようか。可能ならば、書き出ししよう。

手だて (〇)	手だての内容 (・)	指導上の留意点 (◇)
○児童の発表や反応を受けて柔軟に対応し、目標に迫る。	・発表やつぶやきの中のキーボードを拾って活用を図り、理解の支援とする。	◇キーボードを使って児童をほめた。また、積極的に活用して、活用を促す。

○振り返りシート記入例

振り返りシート

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

●授業を参観して、他の教員から学んだ教授方法や考え方等

記入日	11 月 27 日	参観した授業	3年 数学「2次方程式」
学んだこと (自分の参観観点に基づく学び・気づき等)	分類	学んだ内容	
	課題提示	<ul style="list-style-type: none"> 既習の解き方や考え方を、いつでも見えるところに貼っておくと、個に対応した振り返りが可能になる。 つぶやきや課題への集中が促された。 	
	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ノートに貼り付けるようにプリントをつくることで、整理が苦手な子どもも教師の意図したノートをつくることができていた。 	
	指示	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを設定し、発表やつぶやきからそれを引き出す。 	
	声掛け	<ul style="list-style-type: none"> つぶやきを聞き逃さずに授業に反映させていく。 誤答に対しても「どんまい」「ありがとう」等の声掛けをすると、失敗したとか、どうしようといった感情をもたせずに授業を進められる。 	
課題提示	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を提示する際には、その後の半具体の作業活動との類似性を考える。 具体物を提示したならば、最終場面で具体物にかえす。 		

授業を参観して学んだことを
校内研究の視点(手だて)と
結び付けて実践

●今後の授業実践(授業の見合い)で取り組みたい手だて

段階	学習の場面と手だて(○)	手だての内容(・)	指導上の留意点(◇) (手だてが最も効果を発揮するために気を付けたいこと)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ ○自分の考えを深め、高め合う場の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを設定し、発表やつぶやきからそれを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇キーワードを反復したり、強調したりする。 ◇誤答を活用する。

校内研究の視点(手だて)から記述

●今後の授業実践(授業の見合い)の計画 ※持参した教科書等を使って検討

授業で実践したい内容	自分の考えを深め、高め合う場での指示の在り方		
実施教科(領域)	算数		でおこないたい。
実践単元	「分けた大きさをあらわそう(分数)」	の第	2 時あたり

自己目標とした項目との
関連も考慮する。

●高めたい授業力に関する自己目標の達成状況

校内研究で取り組む項目					校内研究で取り組む						
取り組み中の項目 (キーワードのみ)		発問, 指示			取り組み中の項目 (キーワードのみ)		教材や資料の分析				
STEP1	○	STEP2	△	目標	×	STEP1	◎	STEP2	○	目標	△

※STEP1, STEP2, 目標(自己目標)の達成状況は、◎, ○, △, ×で記入する。

○学びシート記入例

学びシート

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

※入力は色の付いた部分のみです。

●授業を参観して学んだことや自分の授業実践で成果を実感したこと等を記述・蓄積します。

	分類	学んだ内容
学んだこと	課題提示	<ul style="list-style-type: none"> 既習の解き方や考え方を、いつでも見えるところに貼っておくと、個に対応した振り返りが可能になる。 つぶやきや課題への集中が促された。
	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ノートに貼り付けるようにプリントをつくることで、整理が苦手な子どもも教師の意図したノートをつくることができていた。
	考えを引き出す場面の学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ペアよりも人数の多いグループ活動を取り入れると多様な考えを引き出しやすい。
	声掛け	<ul style="list-style-type: none"> つぶやきを聞き逃さずに授業に反映させていく。 誤答に対しても「どんまい」「ありがとう」等の声掛けをすると、失敗したとか、どうしようといった感情をもたせずに授業を進められる。
	課題提示	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を提示する際には、その後の半具体の作業活動との類似性を考える。 具体物を提示したならば、最終場面で具体物にかえす。
	板書	<ul style="list-style-type: none"> 板書する際、「課題提示と見通し」「まとめ」「適用」など、授業の内容に応じて構造的に分割して計画立てておくと、見やすく、分かりやすい板書となる。
	伝え合う場の設定	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞く際、自分の考えと違う意見はメモするように常に声掛けし、習慣付けると聞く姿勢が高まるとともに、その意見を反映させた考え方もできるようになる。
	教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 実体験が不足している事柄についての学習では、身近な器具を用いて類似する現象を視覚と体感を通して捉えさせると効果的である。(加湿器を用いた気象の学習)
	見通しをもたせる場面	<ul style="list-style-type: none"> 学習コーナーを設置して、ヒントを提示したり、既習内容の振り返りができるようにすると個に応じて見通しをもたせやすい。
	発問	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが理解しやすく、「考えてみよう」と思える発問にするために、子どもを十分に課題にひきつけた上で問いを発するようにするとよい。
	相互評価	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価はプラスの評価が多く書かれているため、最終段階で発表しあうと、学習後に達成感や充実感をもたせることができる。
	意図的指名	<ul style="list-style-type: none"> どのような意見をどの順番で発表させるのか、事前に計画しておき、机間指導をしながら誰に発表させるか決定するようにする。

目次

注意すること

※1
学んだ内容の記述の後半が枠内に表示しきれなかったり、印刷できなかったりする場合には、そのセルに行を挿入してください。

※2
このシートは、2枚目まであります。3枚目以降が必要な場合は、セルをコピーして使用してください。

成果一覧シート

※入力は色の付いた部分のみです。

職名	教諭	氏名	青葉 太郎	実施年度	平成 24 年度
----	----	----	-------	------	----------

教科	算数
----	----

●授業を参観して学んだことや自分の授業実践で成果を実感したこと等から成果一覧表を作成します。

段階	学習の場面と手だて(○)	手だての内容(・)	指導上の留意点(◇) (手だてが最も効果を発揮するために気を付けたいこと)
導入	○生活場面と学習内容を結び付け関心を高める。	・問題文につながる場面絵を用いる。	◇場面絵を用いて児童を引き付けるとともに具体的な問題場面が正確に捉えさせるようにする。課題解決後に場面絵に戻り、学習内容を生活場面につなぐ。
導入	〈課題設定場面〉 ○既習事項を活用し、必要感のある課題設定をする。	・これまでの学習内容との相違点や共通点に気付かせる。	◇問題文に取り組ませる際に既習事項との違いや既習事項を使えば解けそうだという興味・関心や必要感、切実感から課題設定すると解決意欲が高まった。
導入	○多様な考え方ができる課題設定をする。	・多様な考えを比較・整理・まとめることを通して、段階的に理解できるようにする。	◇可能ならば多様な考え方ができる課題設定を行い、児童に応じた解決の見通しと解決後に自分の考えをもつことができるようにする。
展開	〈見通しをもつ場面〉 ○解決の見通しをもたせる時間を設定する。	・既習事項を活用し、児童一人一人に解決の見通しをもたせる。	◇見通しをもつことができない児童が多い場合、下記の3点に留意する。 ①前時の学習内容や活用できそうな既習事項を想起させる。 ②学習コーナーの掲示内容に着目して考えるようにさせる。 ③見通しをもつことができた児童の考えを紹介する。
展開	○学習コーナーの掲示内容を活用する。	・児童が見通しや考えをもつことができない場合、学習コーナーをヒントの1つとする。	◇見通しや考えをもつ場面、学習を振り返る場面で、いつでも児童が活用できるように、学習の進度に合わせて掲示内容を増やしていくようにする。
展開	〈課題解決場面〉 ○操作活動や作業の手順をまとめた表を活用する。	・操作活動や作業の手順や留意点をまとめた表を補助黒板に貼り、黒板の横に置く。	◇スムーズな操作活動や作業を行わせるために、説明や示範と表を結び付けて行う。また、音声だけでなく、目で常に確認できるようにし、手順等のしっかりした理解につなげる。
展開	○自力解決の手順を活用する。	・課題解決に向けた進め方を示し、自力解決が進むようにする。	◇見通しをもった後の進め方を確認する。 ①見通しをもとに、問題場面を絵図や数直線図に表す。 ②既習内容をもとにして考える。 ③結果を式や図などに表し、答え(自分の考え)を書く。 ④その理由や根拠をまとめる。
展開	○共感的な受け止め方をする。	・周りに聞こえるように考えのよさをほめたり、支援をしながら安心するような声掛けをしたりする。	◇「見取りのキーワード」を準備し、よい点をほめることにも活用する。「大丈夫」や「ドンマイ」といった言葉がけを行いながら支援を行い、安心して学習が続けられるように配慮する。

スポット研修の進め方

スポット研修とは…

校内研究の各取組を活性化させるためや校内研究と関連しない自己目標の解決を目指して適宜取り入れる研修のこと。個々の教員の授業力向上のために、個人の課題や悩みにも積極的に対応して行う。個人ではなかなか解決できない課題を研修形態を工夫しながら進め、見通しをもったり解決を図ったりしていく。

■研修の内容

☆個々の教員の授業力を高めるための

- ①校内研究の内容に関わるもの
- ②校内研究の内容に関わらないもの

■研修形態

☆研修内容によって使い分ける

- ①グループ研修 ○学年・教科等別
 - 授業力課題別・希望別
 - 教職経験年数の異なる集団別
- ②一斉研修(個別研修)

☆グループ別の特徴

- 学年・教科等別
…一番集まりやすく、話し合いを設定しやすい。
 - 授業力課題別・希望別
…同じ課題意識をもったグループとなり、話し合いが進めやすい。
 - 教職経験年数の異なる集団別
…経験年数によって感じる課題が違い、互いにより影響を与える。
- ※研究主任が授業力セルフチェックシート、目標設定シート等から実態を把握し、話し合いが活性化するように意図的にグループ分けを行うことも考えられる。

■進め方のポイント

☆準備すること

- 研修内容によるグループ決め
- 場の設定
…グループ数に応じた場の設定(同じ会場か別会場か)
テーブルや椅子の配置、ホワイトボード等
- その他(必要に応じて)
…黒板、ホワイトボード、模造紙、付箋紙、マジック

☆ファシリテーターに求められる4つのスキル

スキル	主な内容
1. 場のデザインのスキル (場をつくり、つなげる)	・場を確保し、必要な物を準備する(話し合いに必要な物)。 ・話し合いのルールを決める。 ・話しやすい雰囲気をつくる。
2. 対人関係のスキル (受け止め、引き出す)	・共感しながら傾聴する。 ・質問で話し合いを深める。 ・参加者の様子から思いを推察する。 ・話をつないで広げる。
3. 構造化のスキル (かみ合わせ、整理する)	・筋道を立てて話し合いを進める。 ・出てきた意見や考えを見える形にしていく。(図化する等)
4. 合意形成のスキル (まとめて、分かち合う)	・話し合いをまとめる。 ・まとめたものを全員で振り返り共有する。

☆ファシリテーター役の教員が留意すること

○意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、参加者が気軽に話し合えるように環境を整える。

○話し合いのルールを確認する。

(例)

- ・全員が必ず発表する。(時間を決める)
- ・それぞれの発表を共感的に受け止める。(批判しない)
- ・思ったことを素直に本音で語る。
- ・無理に方向性を決めたり、まとめたりしない。

○話し合いの目的とゴールを決め、参加者に確認をする。(黒板やホワイトボードに書き出す。)

○参加者の話をよく聞いて引き出すようにする。(話題を広げていく)

○目的から外れないようにリードし、話し合いを整理していく。

○振り返りの時間を設けて、気づきや学びをそれぞれが整理できるようにする。

○必要に応じて、時間係や記録係を決める。

■スポット研修の具体例

ここで挙げる具体例は、学校内での情報交換を主としたグループ研修(ワークショップを中心として)をイメージしています。外部講師の招聘や校内で誰かが講師を務めて研修を進めることも考えられます。必要に応じて効果的と思われる研修を計画していただければと思います。

☆No.1「情報交換をしよう」(随時実施)

☆No.2「振り返りをしよう」(授業の見合い後を中心に)

☆No.3「学ぶ意欲」(児童生徒理解)

☆No.4「教材を解釈しよう」(教材解釈力)

☆No.5「学習指導案の作成の仕方」(授業構成力)

☆No.6「目指す理想の授業像」(授業実践力)

☆No.7「実践の評価・成果の共有」(授業改善力)

参考文献

堀公俊:「ファシリテーション」(日経文庫)

※ファシリテーションに関する本や文献はインターネット上で多数検索できます。

「情報交換をしよう」	形態		時間
	全	グ	個
	○	◎	□
			60分

★研修のポイント

- 個々の教員が、日常の授業実践を通して感じたり、悩んだりしていることを自由な雰囲気の中で話し合えるようにする。
- テーマや研修形態を工夫することで、個々の教員のいろいろな思いを共有できるようにする。
- コミュニケーションの活性化を図ると共に、個々の教員の授業力を高めるための情報交換の場としていく。

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 研修のテーマやポイント、進め方等の確認	・ファシリテーターを中心にテーマやポイントの確認、必要な係決め等を行い、話し合いをスタートする。	・話し合いのルール ・ホワイトボード
<p>情報交換のテーマ例 ①授業で悩んでいること ②今取り組んでいること、挑戦していること(授業に関して) ③高めたい授業力について等々 ※行う時期や研修形態によってテーマを設定する。また、テーマを特に設けず随時、自由に話し合うことも可。</p>		
2 順番に話す (グ)	・時間を決めて全員が話す時間をしっかり設ける。 ・話す内容を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・付箋紙 ・模造紙
3 それぞれの話題について (グ)	・質問をしたり、感想を話したりしながら話し合いを深めていく。 ・それぞれの思いを共有する。	
4 取り上げたことの整理 (個)	・話し合われた内容について整理し、授業力を高めるための方向性を確認する。	
5 振り返りを行う (個)	・話し合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	・学びシート

■振り返り

- ・グループ全体で、情報交換したことを整理し、それを基に自分の授業力を高めるために得た学びを「学びシート」に記入する。
- ・悩みや課題といったことも取り上げられるが、できるだけ前向きに対応できるようにする。
- ・一人の悩みや課題にとどめず、共有しいつでも話し合える雰囲気をつくる。

■その他

・「情報交換をしよう」のスポット研修は、定期的に行われる「学年会」「学年部会」「教科会」等で随時行うことが考えられる。また、必要に応じて、意図的グループでの「情報交換をしよう」も個々の教員の授業力を高める効果があると思われる。

「実践の振り返りをしよう」	形態		時間
	全	グ	個
	○	◎	○
			60分

★研修のポイント

<p>○「授業の見合い」を通して感じたり、気付いたりしたことをみんなで共有し、授業力向上を図るための学びを蓄積していく。</p> <p>○授業の見方や児童生徒の見方を鍛え、授業力向上を図る。</p>

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 研修のポイント、報告会の進め方の確認	・ファシリテーターを中心にポイントの確認必要な係決め等を行い、報告会をスタートする。	・話合いのルール ・ホワイトボード
<p>実践の振り返りの例 ①自分の実践を中心に ②参観した実践を中心に ③自分の目標に沿った実践を中心に等々 ※校内研究の視点からの振り返りが中心となるが、それ以外の振り返りも取り上げる。</p>		
2 報告会をする (グ)	・「授業の見合い」を実施し、感じたり、気付いたりしたことを発表する。時間を決めて全員が話す時間をしっかり設ける。	・ホワイトボード ・指導案シート
3 校内研究について (グ)	・研究授業の事後検討会における確認事項について検証する。 ・質問をしたり、感想を話したりしながら話合いを深め、次回の研究授業につなぐことを確認する。	
4 情報交換をする (グ)	・校内研究の視点以外を取り上げ、それぞれの目標や課題に対する思いを共有する。	・学びシート
5 振り返りを行う (個)	・話し合われた内容について整理し、授業力を高めるための方向性を確認する。 ・話合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	

■振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の見合い」の実践から報告されたことを基にして、次の研究授業への取組の見通しをもつ。 ・個々の教員の目標や課題へも助言を行い、それぞれの授業力向上を図る。 ・一人の悩みや課題にとどめず、共有しいつでも話し合える雰囲気をつくる。
--

■その他

<ul style="list-style-type: none"> ・「実践の振り返りをしよう」(実践報告会)のスポット研修は、時間設定が難しい場合、報告の仕方を工夫することが必要である。(発表は紙面で行うことも) ・個の授業力向上を図るために、校内研究の視点にどのように取り組むのかをその都度確認していくことが大切である。

「学ぶ意欲について」	形態		時間
	全	グ	個
	○	◎	○
			60分

★研修のポイント

○学習に関するアンケート結果や各学級(各教科)における資料の分析を基に、児童生徒の「意欲」の見取りについて考える。
 ○日常の授業を振り返り、児童生徒の学ぶ「意欲」を向上させるために有効な働き掛けについて情報交換をする。また、伸ばしていきたい、改善していきたい自分の児童生徒理解力について考える。※校内研究との関連も考える。

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 データについて共通理解を図る	・アンケート結果について説明をし、概要について共通理解を図る。 (説明はデータ処理をした担当、または研究主任)	・アンケート結果
<p>学ぶ意欲のデータ例</p> <p>①校内研究におけるアンケート調査を活用 ②各学級におけるデータの活用 ③適当なデータがない場合は、文献の活用 ※意欲の見取り方の情報交換のために参考となるデータを用意できるとよい。</p>		
2 アンケート結果から感じたことをまとめる (個)	・アンケート結果から感じたことを自分なりにまとめることで課題を焦点化する。 ・働き掛けのアイデアを書く。	・付箋紙 ・ワークシート
3 話し合う (グ) ・順番に発表 ・働き掛け ・情報交換	・付箋を貼り付けながらアイデアを紹介し合う。 ・それぞれの授業力向上に活かせるように、助言や意見交換をする。	・付箋紙またはワークシート ・模造紙
4 取り上げたことの整理 (個)	・話し合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	・学びシート
5 振り返りを行う (個)	・これからの取組について整理する。	

■振り返り

・グループ全体で、情報交換したことを整理し、それを基に自分の授業力を高めるために得た学びを「学びシート」に記入する。
 ・日常の授業における何気なく行っている働き掛けを振り返り、どの程度有効なのかを検討してみる。
 ・情報交換から得た学びを自分の取組に活かす。

■その他

・ワークショップの際は、時間設定に気を付ける。
 ・日常から授業についての話題を取り上げてコミュニケーションの活性化を意識できるようにしたい。

「教材解釈をしてみよう」	形態		時間
	全	グ	個
	○	◎	○
			60分

★研修のポイント

○児童生徒に「どう教えるのか」を構想するためには、「何を教えるのか」をしっかりと押さえて臨まなければいけない。「何を教えるのか」にあたる部分が教材解釈と言える。
 ○授業で扱われている文学的な文章教材を基にし、実際に教材解釈の実践をする。そうすることで、教材解釈の重要性を確認する場とする。

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 教材解釈についての理解(実践する前に押さえること) (個)	・「教材解釈」についての基本的な押さえをしてから実践に移る。 (講師は、国語科主任または、研究主任が担当する。)	・資料
2 文学的な文章教材を基に教材解釈の実践 (個)	・作品の主題や読み進めるときのイメージの変化などを捉えられるようにワークシートを活用する。 (例)・サラダでげんき・名まえをみてちょうだい・サーカスのライオン・ごんぎつね・注文の多い料理店・海のいのちなど	・文章教材 ・ワークシート
3 教材解釈について話し合う(グ) ・互いの解釈を見合う ・意見交換	・話し合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	
4 振り返りを行う	・これからの取組について整理する。	

■振り返り

・グループ全体で、意見交換したことを整理し、それを基に自分の授業力を高めるために得た学びを「学びシート」に記入する。
 ・教材の価値に迫り、児童生徒の反応を丁寧に予想し、どのように働き掛けていくのかを構想することが教材解釈であることを押さえ、自分の取組に活かす。

■その他

・時間的なことも考慮し、文章教材については一部分のみの取り扱いとする。
 ・教材解釈についての基本的な押さえに用いる資料は、分かりやすいものにする。

「学習指導案の作成の仕方」	形態			時間
	全	グ	個	60分
	○	◎	○	

★研修のポイント

<p>○学習指導案のすべてを対象に研修会を行ったのでは、時間的に厳しいことが考えられるので、授業構成力の観点から焦点を絞って実施する。</p> <p>○校内で統一した書式がある場合は、実際の学習指導案を基に作成の留意点について研修を進めていく。</p>
--

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 学習指導案を作成する意義について確認 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案は、教師自身の授業力を見つめ直す場であることを押さえる。 ・学習指導案を作成するためには、すべての授業力が必要であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料
2 具体的に学習指導案の作成の仕方を考える (個)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業構成力の観点から焦点を絞ったワークシートを準備し、取り組みながら大事なことを確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案 ・ワークシート
3 実際に書いてみる (個)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこか一点だけに絞り、実際に書いてみることでどのような力が必要なのかを実感させる。 	
4 読み合い検討する (グ)	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに読み合い、よかった点や改善が必要な点を助言し合う。 	
5 振り返りを行う (個)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びシート

■振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成には、授業力を構成する5つの力が必要であり、授業力向上を図っていくことがよい学習指導案の作成につながっていくことを確認する。 ・一部ではあるが、実際に書いて感じたことや助言を参考としながら、自分の高めたい授業力について考え、学習指導案の作成に活かしていく。
--

■その他

<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の取組のスタート時に学習指導案の形式や内容の書き方を確認するために行うことが考えられる。 ・研究授業の学習指導案を主に作成する学年(部)会、教科会等で研修を行ってもよい。

「目指す理想の授業像」	形態		時間
	全	グ	個
	○	◎	○
			60分

★研修のポイント

○日常の授業を振り返ることで取組の現状を確認し、伸ばしていきたい、改善していきたい自分の授業実践力について考える。※校内研究との関連も考える。
 ○グループごとに情報交換し、自分の授業実践力の向上に活かすことができる取組を考えたり、授業実践力を向上させる意識を高めたりする。

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 研修のテーマやポイント、進め方等の確認	・ファシリテーターを中心にテーマやポイントの確認、必要な係決め等を行い、スタートする。	・話合いのルール ・ホワイトボード
2 現状を確認 (個)	・付箋紙や用紙に書き出しながら、日常の授業の振り返りを行う。	・付箋紙またはワークシート
3 話し合う (グ) ・順番に発表 ・情報交換	・黒板や模造紙等に貼りながら、振り返りを紹介する。 ・それぞれの授業力向上に活かせるように、助言や意見交換をする。	・模造紙
4 取り上げたことの整理 (個)	・話合いを通して、気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	・学びシート
5 振り返りを行う (個)	・これからの取組について整理する。	

■振り返り

・グループ全体で、情報交換したことを整理し、それを基に自分の授業力を高めるために得た学びを「学びシート」に記入する。
 ・目指す授業像に近づくために、自分が高めなければいけない授業実践力を意識することができる。
 ・情報交換から得た学びを自分の取組に活かす。

■その他

・ワークショップの際は、時間設定に気を付ける。
 ・日常から授業についての話題を取り上げてコミュニケーションの活性化を意識できるようにしたい。

「実践の評価・成果の共有」	形態			時間
	全	グ	個	60分
	○	◎	○	

★研修のポイント

<p>○自分の目標に対する取組状況について報告し合い、互いの成果や課題等を共有する。互いの気付きや助言を活かし、今後の取組への意欲を高める。</p> <p>○「よかったこと」「努力したこと」などに焦点を当てて実践を振り返り、前向きに評価を行えるようにする。</p>
--

■研修の流れ

内容(形態)	留意点	準備他
1 研修のポイント, 進め方の確認 (一斉)	・ファシリテーターを中心にポイントの確認必要な係決め等を行い, 報告会をスタートする。	・話合いのルール ・ホワイトボード
話合いの例 ※校内研究の視点からの振り返りが中心となるが, それ以外の振り返りも取り上げる。(基本的には, 個々の教員の取り上げたい実践について話題とする。)		
2 実践の報告 (グ)	・どのようなことを目標としてどのような取組をしたのかを聞き合う。	・資料
3 実践から学んだこと (グ)	・実践後に感じたこと(よかった, 努力した)を聞き合う。	
4 意見交換をする (グ)	・それぞれの目標に対する取組状況を共有する。	
5 これからどうするか (グ)	・話し合われた内容について整理し, どのように改善を図っていくのかを考える。	・学びシート
6 振り返りを行う (個)	・話合いを通して, 気付いたことや感じたことなどを「学びシート」に記入する。	

■振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実践を通して学んだことを聞き合い, 参考としながら授業改善を図っていく。 ・個々の教員の目標や課題へも助言を行い, それぞれの授業改善力の向上を図る。 ・一人の悩みや課題にとどめず, 共有しいつでも話し合える雰囲気をつくる。
--

■その他

<ul style="list-style-type: none"> ・「実践の振り返りをしよう」(報告会)のスポット研修と重なる部分もあるので, 時間設定のことも考慮し, 合わせて実施することも考えられる。 ・自分の目標を見つめ, 個々の授業力向上を図るためには, 日常の授業改善を進めていくことが大切であることを確認する。
